

立命館

父母教育後援会だより



A Magazine for Ritsumeikan University
Parents Association of Student Education Assistance

2011年度
夏号

2011 Summer Issue

CONTENTS

02 ごあいさつ

03-09 【特集】自分の進路は「志」で決まる。
——「自分のやりたいこと」を見つけ「志」を磨く——

04 2010-2011 進路・就職状況

06 立命館で見つけた！私の進路、私の仕事

10-25 春のオープンカレッジ報告

11 進路・就職講演会	18 スキルアップ説明会	21 キャンパスツアー
13 就職相談会	19 留学説明会	22 アカデミック講演会
14 大学院進学説明会	20 教職説明会	24 学生生活講演会

26-37 学生生活について

26 データに見る学生実態

30 親の心配、子どものホンネ

32 立命館のゼミナール訪問

36 施設紹介

38-55 報告・お知らせ

38 総会報告

42 都道府県父母教育懇談会報告
(大阪府〔理系〕・岡山県)

46 父母インタビュー

47 公費助成について

48 保健センター健康通信

50 学園トピックス

52 学生イベント & スポーツ

54 こんな場合はここへ

ごあいさつ

父母教育後援会会員の皆さまには平素より本学の教学に深いご理解を頂き、また、厚いご支援を賜っております。衷心よりお礼申し上げます。また、東日本大震災により、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い復興をお祈りしております。本学としても、出来る限りの支援をおこなう所存です。

さて、立命館大学の最大の特徴は、学生が1つの目標に向い、一丸となって、事にあたるところにあると思います。最近、「学びのコミュニティ」という言葉を使っていますが、すでに、30年以上も前から、その言葉を実践する文化が立命館大学で育まれてきました。その文化の中で、本学学生が社会性をしっかりと身につけて育っていることを目の当たりにします。1回生小集団クラスには、オリター・エンターと呼ばれる上回生がサポートに入り、その支援のもとに、クラス企画をやり遂げ、1つ1つ自信を深めながら、集団として活動することの喜びを体得していきます。その蓄積が、誇るべき立命館大学学生文化を創り上げてきたと言えます。また、本学では、教養教育、サービ斯拉ーニングなど社会との接点を意識させ、社会の中で生きる意義を認識させる教育を大事にしています。それも、集団の中の自分の位置をしっかりと確認しながら、自らの人生を考える機会になっていると考えています。

「平和と民主主義」は末川博総長のときに、戦争の反省にたって、憲法と教育基本法の精神に則って定まった本学の大事な教学理念です。この言葉は平和な現代だからこそ、大事にしなければならない。当たり前前に平和を感じる現代にあってこそ、平和の大事さをしっかりと認識しなければならないのです。震災により、厳しい生活を余儀なくされている方々のことを思えば、なんとかして、日本中が力を合わせて、平和を取り戻さなければならないと思うのです。

「随処に主となれば、立処皆真なり」(臨在録)という句があります。一人ひとりが主体性を持って行動することの大事さを述べた言葉ですが、それは、同時に、一人ひとりが、社会的集団の中において、互いに、尊重し合える主人公であり、責任をもって、自らの役割を果たす、そのことの大事さを述べた言葉と理解しています。仲間とともに頑張る、そして、仲間と成功の喜びを分かち合う、そのような仲間の大切さを分かる人間がこれからの社会の中で最も重要なではありませんか。立命館大学では個々の学生を大事にするとともに、社会における個を大切にすることを大事にしたいと考えています。

父母教育後援会幹事長 石井 秀則





| 特集 |

自分の進路は「志」で決まる。

——「自分のやりたいこと」を見つけ「志」を磨く——

現在、学生が直面する就職環境は、極めて厳しいものです。とりわけ質が重視される採用で問われるのは、基礎学力や教養、コミュニケーション能力はもちろん、学生一人ひとりの社会観や人生観、職業観、そしてそこから育まれる働くことに対する「志」です。それらを身につけるためには、何より学生生活の充実が欠かせません。正課や課外のさまざまな学習と体験の積み重ねを経て、進路選択に不可欠な熱意と、自らの軸となる確固とした価値観、そして、それを実現する力量が形成されるのです。

量より質を求める厳選採用と、グローバル人材への注目が高まる。

2010 年度（2011 年 3 月卒業）の就職状況は、企業による採用意欲に回復の兆しが見られたものの、依然として厳しいものでした。量より質を求める採用傾向がますます鮮明になり、その結果として、就職活動は前年以上に長期化の様相を見せました。目を引いたのは、大企業や製造業を中心に、国籍を問わず、グローバルに人材を確保しようとする傾向です。そのような中で外国人留学生への注目が高まりました。

本学の大学生・大学院生の就職決定率（※1）は、91.7%、進路・就職決定率（※2）は 82.5% と、全国の私立大学の中でも高い実績を確保しました。（図1）

学生の動向に着目すると、文系の学生には、とりわけ「安定」志向が強く見られました。大手・有名企業へ志望が集中。中には、企業研究を十分行わず、知名度だけで企業を選択した結果、就職活動が長期化した学生もいました。

採用では、エントリーシートや筆記試験のボーダーが高まる傾向に加え、グループディスカッションやグループワークを通して組織活動や対人関係にかかわる能力を問う企業が増えています。とりわけ顕著なのは、価値観やビジョン、職業意識を問う傾向が高まっていることです。

一方、技術系では、自動車・部品や家電などのメーカーで軒並み採用数が減るという状況の中、文系と同じく多様な採用形式が見られました。技術系においても、基礎学力や専門能力に加えて、コミュニケーション能力、モノづくりに対する意欲や熱意、ビジョンが求められているといえるでしょう。

※1 就職決定率：就職決定数／就職希望者

※2 進路・就職決定率：就職決定者および大学院進学者数／卒業生

2011 年度 就職動向

東日本大震災の影響により、厳選採用と就職活動の長期化が強まる。

2011 年 3 月に発生した東日本大震災は、2011 年度（2012 年 3 月卒業）の新卒雇用情勢にも大きな影響を及ぼしています。東日本を中心とした一部大企業が、選考時期を大きく後ろにずらす一方、関西・西日本に拠点を置く企業では従来通りの日程で選考が始まったため、昨年にも増して採用活動の長期化が予想されています。求人倍率は 1.23 倍（前年比-0.05 ポイント）と、それほど減っていませんが、厳選採用の動向はさらに加速しています。上半期の業績いかんによって

は、採用予定数に満たなくても選考を終了する企業が増えることも予想されます。

民間企業への厳しい就職状況を反映して、近年、公務員試験の申込者数が増えています。しかし公務員の採用数は年々減少しており、より一層狭き門になっています。筆記試験（1 次試験）のボーダーが高くなり、対策の重要度が増す一方、面接（2 次試験）ではなぜ公務員なのか、何をやりたいのかが問われる点は、民間企業と共通するところです。

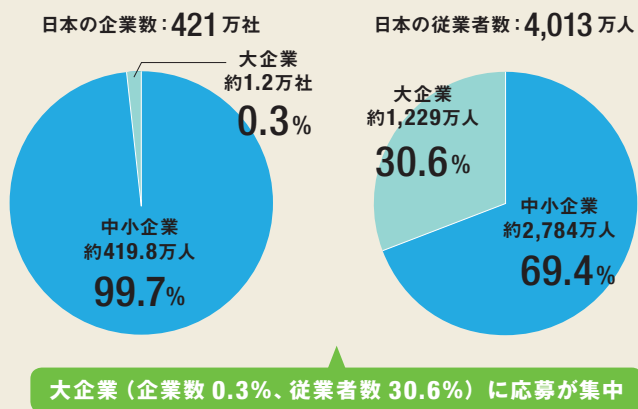
図1 2010 年度（2011 年 3 月卒）進路・就職決定率

		全体	男子	女子
A	卒業生	7,329	4,607	2,722
B	就職希望者数	5,243	3,080	2,163
C	就職決定報告者数	4,808	2,838	1,970
D	大学院進学報告者数	1,235	1,024	211
(C+D)/A	進路決定率	82.5%	83.8%	80.1%
C/B	就職決定率	91.7%	92.1%	91.1%

※把握率 98.2%（可能な限り把握し、支援を行う方針）

※進路未決定者…継続受験者（公務員、教員、難関資格など）、留学、各種学校進学など

図2 企業規模別比較



中小企業の定義

製造業：資本金 3 億円以下又は 300 人以下
 卸売業：資本金 1 億円以下又は従業員数 100 人以下
 小売業：資本金 5 千万円以下又は従業員数 50 人以下
 サービス業：資本金 5 千万円以下又は従業員数 100 人以下

総務省「事業所・企業統計調査（2006 年）」より

社会で求められる力

求められるのは、将来にわたって成長の礎となる基礎学力と「志」。

近年の就職動向を分析すると、民間企業、公務員・教員を問わず、どんな仕事においても求められる資質（共通点）が明らかになってきました。それは、基礎学力と「志」です。今トレンドになっている情報や最新の科学技術を身につけても、数年先には陳腐なものになってしまいかねません。社会で必要とされるのは、将来にわたって成長し続け、どんな時代でも組織に貢献し続けられる人。すなわち「継続的学習能力」のある人なのです。学力と教養といった基盤は、この継続的学習能力のもとで身に付くものであり、そのことが更に高い人間性を築いていくことにつながります。そして何より「志」がなければ、向上心やあきらめない心を維持し、成長することはできません。

こうした基礎学力や「志」は、大学生活の中で目標を明確に持つことで育まれます。基礎学力を身につけるには、何より正課の学びにこそし、その成長を自己省察し、次の目標を見つけることです。それに加えて、課外活動やアルバイト、留学、ボランティア活動、インターシップなど、さまざまな活動の中で多くの成功体験と失敗体験を繰り返すことで、人生観や世界観、社会観、職業観といった価値観が形成され、それがやがて「志」へと高まっていきます。本学の調査でも、大学生活を充実させた学生ほど、希望の進路をつかんだという実感を得ているという結果が表れています。

希望の進路をつかむには

希望の進路を獲得するカギは、「団体戦」の就職活動。

厳しい現実を前に、就職活動の意欲を喪失してしまう学生もいるかもしれません。しかし危機だからこそ、チャンスもあります。採用選考が長期化しているため、大手企業からの追加募集や秋採用が増えることも見込まれています。

就職活動を成功させるカギは、「団体戦」で臨むこと。一人で活動しているのは、失敗した時、原因を客観的に分析し、立て直すことができなかったり、刻々と変わる最新情報を的確・迅速に捉えることができない場合があります。「団体戦」のサポーターとしてぜひ活用してほしいのが、卒業生や内定者を含む本学独自のステューデントネットワークや、キャリアセンターです。

キャリアセンターでは、きめ細やかな就職相談の他、企業の採用動向や学生の就職活動状況に応じた就職活動支援企画を実施。立命館大学の学生だけを対象とした学内企業説明会も数多く開催しています。また“キャンパスウェブ”では、本学のみならず寄せられた最新情報も含めて、随時掲載しています。

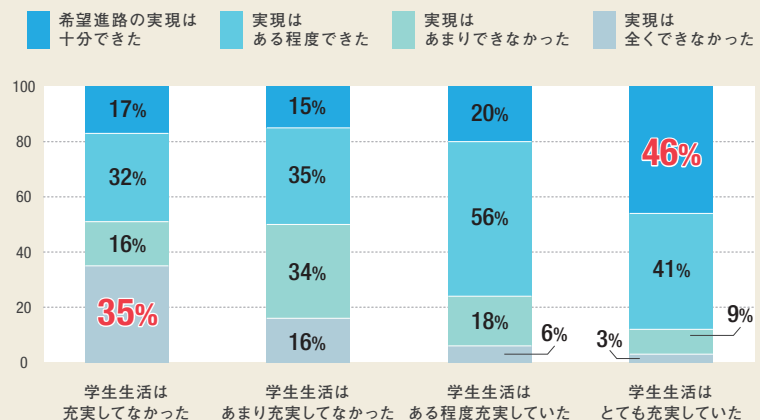
ステューデントネットワーク、キャリアセンター、そして教員や友達…「みんなの力」が、希望の進路を手にする大きな後押しになるはずです。

図3 2010年度難関試験合格状況

試験	区分	合格者数
公務員	国家公務員Ⅰ種	13
	国家公務員Ⅱ種	138
	国税専門官	67
	裁判所事務官	27
司法試験	新・旧試験合格	50
公認会計士	試験合格	29
教員	採用試験	252 (既卒含)

※ 2011年度 国家公務員Ⅰ種 1次試験合格者 56名 (昨年比 15名増)

図4 学生生活の充実度と希望進路の実現との関連性



「学生生活の充実」こそが、希望する進路実現への最大の取り組み

立命館大学 卒業生アンケートより (2006年)

立命館で見つけた！ 私の進路、私の仕事

在学生の声



経験の多少は関係ない。
情熱をもって打ち込むこと
そこから学んだことが
大切と気づいた。

1



voice

映像学部 4 回生
ジンガジャパン株式会社内定

森 耕平 さん

映像学部に入學し、夢中になったのは、ゲームの企画・制作でした。卒業後の進路について考え始めた2回生の時にはもう、ゲームソフトを制作する企業を目指そうと、心を決めていました。当初は家庭用ゲームソフトを作る企業に目を向けていましたが、次第に Web 上で多くの人々が参加するソーシャルゲームのおもしろさや将来性に興味をもつように。就職活動を始める3回生の秋には、ソーシャルゲームを作る企業を第一に考えるようになっていました。

「誰も見たことのないものを作って、人を驚かせたい」。そんな気持ちが、ゲームづくりの原点。無機質なモノや架空の生き物が主人公になったり、非現実的な世界で生き生きと活躍したり…現実にはあり得ない世界にいつの間にか没頭してしまうようなゲームはできないか。そう考えながらアイデアを練る時間が、何より楽しいです。現在は、卒業制作としてソーシャルゲームを作っている真っ最中。私が企画を担当し、プログラムを作ったり、映像を作ったりする仲間と協力しながら、グループでソフトづくりを進めています。

やりたいことがはっきりしていたから、就職活動に際しても、迷いはありませんでした。企業の大きさや知名度にかかわらず、「本当に働きたい」と思える企業に絞って就職活動を行いました。けれど、意気込んでいた分だけ、第一志望の企業の選考に落ちた時は辛かったですね。敗因は、面接の際、自分をアピールしたいという気持ちがはやるあまり、映像学部で得た経験を手当たり次第に並べたててしまったことでした。経験の多少や技術の有無以上に大切なのは、情熱をもって打ち込んだ経験やそこから学んだことのはず。そう気づいてからは、面接でも自信を持って話せるようになりました。その結果、希望通りの企業から内定を得ることができました。

映像学部で学んで良かったのは、映像制作やプログラミング、電子書籍の制作など、ゲーム制作以外にもさまざまな経験や学びを積み重ねられたこと。視野が広がったことで、身の回りのあらゆるところからアイデアを見出せるようになりました。何より「自分が本当にやりたいこと」をはっきりと見極められたことが、最大の収穫でした。



映像学部で得たたくさんの経験をこれからのゲーム制作にも生かしたい。

将来、就職して社会人として働く上で大切なのは仕事に対する「情熱」や「志」です。

現在、大学での学びや経験を通して、「本当に打ち込めること」を見つけ、

その中で自分の「情熱」と「志」を育むことが、希望の進路を拓きます。

今回は、さまざまな壁にぶつかりながらも、希望の進路を拓いた学生・先輩の声を紹介します。

在学生の声



両親の一言で気づいた 面接失敗のワケ。 多くの人に相談したことが 進路決定に役立った。

就職について考え始めたのは、3回生になった頃。最初は漠然と「情報理工学部で学んだことを生かせるだろう」と、情報系の企業への就職を考えていました。私は一人で考え込むと、不安に陥ってしまう性分。同じく就職活動に臨む友達や、研究室の教授・先輩、両親など、多くの人にわからないことを打ち明け、一人で抱え込まないように心がけていました。情報系以外の業界にも幅広く目を向けるようになったのは、「最初は志望を限定しすぎず、さまざまな業界や仕事を見た方がいい」と先輩からアドバイスを受けたからでした。

両親と話したことも、力になりました。就職活動を始めてしばらくした頃、面接で不採用が続いたんです。軌道修正の契機となったのが、両親の言葉でした。「あなたは余分なことまで言い過ぎるから…」。私の性格を知り尽くしたその一言で、そういえば面接で質問されるたびに、思い余って必要以上に話し過ぎていたことに気づきました。懸命に話せば話すほど、面接官から返答や質問が減っていくんです。面接とは、一方的な自己PRの場というだけでなく、企業と自分がわかり合うためのコミュニケーションの機会なのだと、ようやく思い至りました。

3回生の夏が始まる頃からは、社会で働くことや、実際の仕事内容について知ろうと、5社でインターンシップを経験しました。自動車部品メーカーのシステム部門なども垣間見たことで、情報系に限らず、あらゆる企業で情報技術が生かされていることに気づき、興味を持ちました。

年が明け、いよいよエントリーや採用面接が本格化する時期になって、かねてからおもしろそうだと思っていたメーカーでのインターンシップに参加する機会を得たんです。「こんな時に就職活動に集中してなくていいのかな」と、迷いました。でも思い切って参加。結果的には、興味のある企業や業界を知る機会を得たことで、自分の志望をより明確にすることができました。決め手となったのは、他でもない3月に発生した東日本大震災でした。被災地はもとより、関東地方でも交通網が麻痺し、たくさんの方が混乱に陥るところを目の当たりにして、インフラの重要性を痛感。「社会の根幹を支える仕事に就きたい」という思いが強く芽生えたことで、鉄道会社への就職を決めました。



voice

情報理工学部 4回生
東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海) 内定

伊藤麻由さん



2回生から情報コミュニケーション学科に在籍。その成果を社会で生かしたい。

立命館で見つけた！ 私の進路、私の仕事

卒業生の声



就職のためでなく
「夢」を持ってほしい。
夢に向かって努力する日々が
キャリアになるから。

就職するためではなく、将来にわたって追いつけられる「夢」を胸に抱いてほしい。何よりそれが、社会で働く先輩として、学生の皆さんに伝えたいことです。そのために学生時代には、些細なことでもいいので目標を持ち、それを達成する喜びを味わってほしいと思います。

私自身いつも夢を忘れず、それに向かって努力してきた結果が、キャリアになりました。発展途上国や貧しい国の人々の役に立つ仕事をしたい。初めてそんな夢を持ったのは、学生時代。就職活動では、グローバルに事業を展開する企業を軒並み受けました。

銀行に就職後は、個人のお客様への営業からスタート。法人営業、さらに外国為替を扱う部署でエネルギー政策にかかわる事業に取り組み、経験と実績を積みました。英語を話すことすらできなかった私に、海外への道が開けたのは、アメリカの石油会社の重役陣を交えた会食の席でのこと。英語力不足を臆せず、つたない言葉で懸命に話しかけたところ、相手企業の社長がその姿勢を評価してくれたのです。その結果、上司から海外勤務を視野に入れた海外留学を勧められることに。先進国への留学が常道ですが、私は慣例にないことを承知で発展途上国への留学を希望。熱意が認められ、タイの王立大学へ留学しました。その後、タイ、さらにインドで海外開発の仕事に従事。2005年に帰国するまで、夢だった仕事にかかわることができました。

夢は、簡単になうものではありません。「自分には無理」だと逃げず、情熱と諦めない心でチャンスをつかむこと、そして、日々地道な努力を重ねることが重要です。もちろん私にも、思うように事業が進まなかったり、苦しい仕事にぶつかることがたくさんありました。けれどどんな時も夢を見失わずにいたから、困難も乗り越えられたのです。学生時代に描いた夢が、ようやく実を結びつつあるという手ごたえを感じたのは、入行して20数年が過ぎてからでした。

就職するという目先の目標だけを追いかけたために、せっかく希望の企業に入社しても、やりがいを見失ってしまう若手社員をしばしば見かけます。重要なのは、「どこに入るか」ではなくどんな目標を持ち、「何をするか」。自分の夢を語る学生さんは、輝いていますよ。



voice

株式会社みずほ銀行勤務
1987年3月 経営学部卒業

松良宗幸さん



キャリアセンター主催の1回生～3回生対象企画「仕事研究セミナー」で講演。愛校心が、後輩のために尽力することにもつながっています。

卒業生の声



大学時代は
さまざまなことに挑戦し
「本当にやりたいこと」を
見つけられる時間。

4



旺盛な好奇心と行動力が私の強み。大学時代はやりたいと思ったことには何でも挑戦しました。中でも、現地の人とふれ合ったり、働いたりしたニュージーランド一人旅や3ヶ月間のインターンシップでさまざまな国や年齢層の人と接し、多様な文化や価値観にふれたことが、自分の進む道を決める時の糧になっています。

ずっと関心を抱いていたのは、「広告」。就職活動を始めた当初は、大手広告代理店を第一志望に据えていました。けれど不特定多数の相手にアピールする、いわゆる「マス広告」に魅力を感じる一方で、その広告にどれだけ効果があったのかを明確に計ることが難しい点や、縮小傾向にあるメディア広告市場の流れに疑問を感じ始めて…。最終的には、広告効果を確かめることができ、かつ成長領域のインターネット広告を得意とする広告会社に就職を決めました。

働くことや自分の進む道に悩むことになったのは、就職してからでした。仕事ぶりを認めてくれる上司や心の通じ合う同僚に恵まれたものの、どうしても「やりたい仕事をしている」という実感を持つことができなかったのです。どんなに居心地の良い職場でも、共感できない仕事を長く続けることはできません。2年後、思い切って転職を決意しました。

今度は、自社商品をPRできるメーカーを志望。中でも、生活必需品などと比べて広告の役割や影響力の大きい嗜好品を扱う企業へと、志望を絞りました。

現在の仕事は、実は「営業」です。たばこを販売する商店を回り、売上を上げるためのアドバイスをを行うのが主な仕事。住宅街や工場密集地域といったエリアの特性、購入者層を見極め、それに合わせたキャンペーン企画を練り、提案したりもします。方法は違うものの、「物を売る」という広告の本質に正面から向き合っているという手ごたえを感じています。商品をたくさん売るだけでなく、それが人生や生活に根を下ろすことに力を尽くしたい。ようやく本当にやりたいことがはっきり見えてきたこの頃。いつか、新しいたばこ文化を創造する。そんな夢に近づいているという実感が、今の原動力です。

「本当にやりたいこと」を見つけるのは、とても難しい。大学の4年間は、それについてとことん考えられる時間です。さまざまなことに取り組んで刺激を受け、自分の進路を見定めてほしいですね。



CA (キャリアアドバイザー) として、後輩の就職相談にも乗ります。

voice

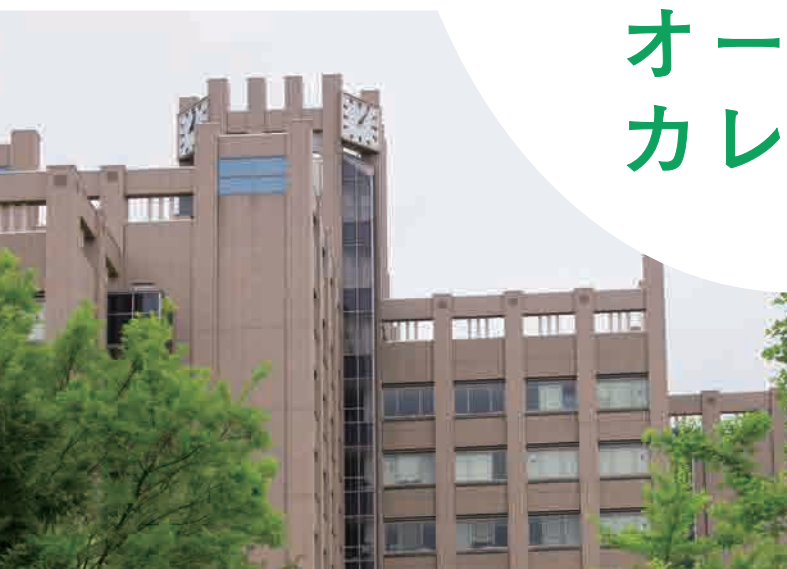
日本たばこ産業株式会社 (JT) 勤務
2008年3月 産業社会学部卒業

君嶋まどか さん



OPEN COLLEGE 2011

春の オープン カレッジ



2011年5月22日(日)、衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで、「2011年度春のオープンカレッジ」が開催されました。今年度は、激しい雨が打ちつけるあいにくの天候。それにもかかわらず、たくさんのご父母に参加いただきました。「進路・就職講演会」「就職相談会」をはじめ、「スキルアップ説明会」「留学説明会」「教職説明会」「大学院進学説明会」など学生のキャリア形成にかかわる説明会の他、「学生生活講演会」「アカデミック講演会」「キャンパスツアー」といったお子様の学生生活を感じられる企画も用意。いずれの会場にも、熱心に耳を傾けるご父母の姿が見られました。なお、前日の21日(土)には、「父母教育後援会総会」が行われ、今年度の事業計画、および予算案が承認されました。

進路・就職講演会

今年は東日本大震災の影響によって、就職活動状況にも変化が見られました。そんな状況を少しでも把握しておきたいと、進路・就職講演会には多くの父母が足を運び、場内は満席となりました。「変容する時代に求められる学生像」と題された講演会では、住友商事株式会社 人事部採用チーム長の松王淳氏が、今、必要とされる人材について解説しました。

志し高くグローバルな人間力が必要

つい先日、2010年度の企業決算が発表されました。震災の影響を受けたにもかかわらず、過去最高益を更新している企業がたくさんあります。世界規模で経済が低迷する中、業績を急回復した企業の多くは、世界戦略が上手くいっています。そんな状況下、いまやどの企業でも世界で戦える人材が求められています。



採用面接では、立派なことを話そうとする学生が多いのですが、我々が知りたいのは、人間力です。会社に貢献してくれる人間力があるかどうか。面接の短い時間にそこを何とか知りたいと思っています。会社に貢献してくれる人材とは、「成長し続けてくれる社員」です。就職する前に実践能力があるに越したことはありませんが、実は重要視していません。必要なのは就職後「伸びしろのある人材」で、向上心のある人、あきらめない心を持っている人を求めています。

次に求めるのが「グローバル人材」。様々な文化をありのまま受け入れられて、そこへ入り込める人。あらゆる人とコミュニケーションをとれる人です。そうした人材・人間力は、何かにチャレンジすることで培われるものです。で

すから、お子さまがやりたいと言ったことはできるだけ止めず、むしろ本人が「無理だ」と言ったことを「やれ」と言うくらいに応援してあげてください。注意して頂きたいのは、「就職」のためだけに行動しないこと。人間がつまらなくなります。一見役に立ちそうにないことや目的のないことにもたくさん挑戦して、早いうちに挫折感を味わったり、才能の限界に気づいて打ちひしがれたりすることで、志の高い人間になれるのだと思います。



すから、お子さまがやりたいと言ったことはできるだけ止めず、むしろ本人が「無理だ」と言ったことを「やれ」と言うくらいに応援してあげてください。注意して頂きたいのは、「就職」のためだけに行動しないこと。人間がつまらなくなります。一見役に立ちそうにないことや目的のないことにもたくさん挑戦して、早いうちに挫折感を味わったり、才能の限界に気づいて打ちひしがれたりすることで、志の高い人間になれるのだと思います。

キャリアセンターによる解説

キャリアセンター次長 浅野昭人

昨今の就職状況は、報道されている通り大変厳しくなっていますが、そんな中、本学では非常に高い就職率を保っています。また学生たちからは、自分の人生を決定する大事な日々を、懸命に頑張っている様子がうかがえます。

グローバル化が進む中で企業が求める人材像は、大学においてしっかり学習した人を採りたいという姿勢に変わりつつあります。ここで求められる学力は知識の量ではなく、自ら考える上で軸となる専門性であり、継続的に学習する習慣です。これらは充実した大学生活でしか得ることはできません。

また、2011年度は、震災の影響がさまざまな部分に表れています。例えば採用時期をずらす企業が増えています。さらに100人の採用枠があっても、求める水準に達しなければ、80人でも採用を止めてしまう厳選採用の傾向がより高まっています。その結果、エントリーシートやSPIの基準点が上がってきています。さらにはグローバルな視野を持った人材を確保したいと動く企業が増えています。

一方で学生たちは大手・著名企業への集中傾向にあります。これは企業や業界の研究や理解が必ずしも十分に深まっ

ていないとも言えます。もっと分析すれば成長性のある中小企業へも注目が高まっていくはずで、キャリアセンターでは地元での就職活動も積極的に支援しています。



進路・就職講演会

日東電工株式会社は、液晶用光学フィルムをはじめ20製品以上で世界シェアNo.1を誇り、27の国と地域を市場に持つグローバル企業です。

厳しい就職状況が続く中、新卒採用の第一線で活躍されている人材統括部人事部採用担当部長池田健一氏の貴重な講演に、約900名の父母の注目が集まりました。

仕事の舞台は グローバル市場へ

日東電工の売上高6,000億円のうち約76%が海外の売上げで、従業員31,000名のうち25,000名が外国人です。世界各地に88社におよぶグループ会社を設置し、従業員の仕事の舞台もグローバル市場へ広がっています。近年では工場の現地化が進み、現地で働くマネージャークラスの社員を育てる必要性も出てきました。そのため、日本語・英語・現地の言葉を



話せ、日本文化を理解できる留学生の採用が増えています。これは当社に限らず、ほとんどの上場企業における傾向です。人を大切にする日東電工では、「自ら変化することを恐れず」「チャレンジできる機会を創り出し」「自らを成長させていく」人物を求め、グローバルに活躍できる自立した人を応援しています。

学生の皆さんに求めることは、基礎学力をつけること。大学院に進む技術系の学生は、研究テーマに真剣に取り組み、研究の仕方を学んでください。そして、いろんなことにチャレンジすること。学生時代に苦労して身につけたことは、社会人になっても役に立ちます。

企業の多くは、社風をよく理解し、共感できる学生に入社してほしいと思っています。採用試験や面接では、会社にすり寄るのではなく、



自分のやりたいことを明確に主張してください。また、知名度は低くても、業界で高評価の会社もあります。学内説明会に参加したり、先生方に優良企業を尋ねるなどして企業研究してください。

世の中の仕組みは刻々と変化し、過去の常識で判断できないことが多くなっています。ご父母の皆さまは、お子さまの話をよく聞き、その判断を信じて応援してあげてください。

キャリアセンターによる解説

キャリアセンター 副部長 花崎知則

2010年度の新卒求人倍率は1.28倍。企業の厳選採用が強まる中、採用広報の早期化、大手企業の選考日程の集中、留学生への注目の高まりなどが見られました。一方本学の就職決定率は91.7%。わずかに低下しているものの、高水準を維持しています。

就職活動の特徴として、大手・著名企



業に集中する傾向にあり、企業研究をしっかりとしない安易な受験が危惧されます。また、ネット情報やマニュアル本に頼り、個人で活動する学生が苦戦を強いられているようです。周りの学生が次々と内定を得る時期に、内定を得られない学生は強い焦りと不安を抱きます。さらには疲労感も加わって、就職活動をリタイアしようとする学生も現れます。そのような時、お子さまの話に耳を傾け、焦りや辛さに共感し、キャリアオフィスに相談するように背中を押してください。

今年度の就職動向は、東日本大震災の影響で不透明だといわざるを得ません。

採用活動が1~2カ月程度遅延する傾向にあり、採用数についても楽観視できません。このような情勢の中で、我々が第一に指導していることは、粘り強く続け、あきらめないこと。家族や友達との語り、OB・OG、教員、キャリアセンターへの相談が大切です。

学生に求めることは、学生生活を充実させること。まず専門分野の勉強に力を入れてほしい。それにプラスして留学、課外活動、アルバイト、ボランティアなどの経験をし、自らを高めてください。その中で、「どんな生き方をしたいのか」「そのためにはどんな就職をする必要があるのか」を考えることが重要なのです。

衣笠

就職相談会

厳しい新卒雇用情勢が続く中、2011年3月に発生した東日本大震災も採用活動に大きな影響を及ぼしています。キャリアセンターの杉町 宏課長より、そうした進路・就職状況が解説されるとともに、立命館大学の就職支援体制が紹介されました。その後、学部ごとの個別懇談会では、ていねいな質疑応答が行われました。

長期化、厳選採用を想定し 粘り強い就職活動を

最初に2010年度の進路・就職状況が報告されました。「『厳しい』といわれる中、立命館大学では前年度とほぼ同じ就職決定率を達成しました」と、評価。就職が決まらない場合の多くは、企業とのマッチングがうまくいかないのだと分析されました。そうした場合を想定し、「昨年から、卒業生に対しても1年間現役学生と同様の就職支援を提供しています」と、新たなサポートも紹介されました。

今年度の採用状況に関して目を引くのは、依然として続く企業の厳選採用の傾向です。さらに今年は、3月に発生した東日本大震災の影響で、大企業を中心に選考時期を大きく後ろにずらす傾向が見

られます。「関西以西の企業では、ほぼ従来通りの日程で選考が行われているため、必然的に選考期間が長期化しています。企業によっては、夏以降にも追加募集や選考を行うので、粘り強く情報を収集し、就職活動を続けることが大切です」と、見通しが語られました。

本学独自の就職情報を 積極的に活用して

次いで、ことさら就職難が強調される報道に惑わされないよう注意もうながされました。大手企業の採用人数はここ数年変化していない上、立命館大学を指定して寄せられる採用情報は年々増えています。そうした現状が示され、「企業の情報は本学独自の就職情報サイト『キャン

パスウェブ』に随時掲載しています。ぜひチェックしてください」と説明。「特に今年のように就職スケジュールが例年と大きく異なる状況の中では、内定辞退などの影響により追加募集などを実施する企業が多く出ることが予想される」と、語られました。また、「企業が学生に求めているのは、小手先の就職スキルではなく、『高い志』です。それを心して就職活動に臨んでほしい」と、述べられました。



BKC

就職相談会

昨今の企業による厳選採用と東日本大震災の採用活動への影響を踏まえ、キャリアセンター花崎知則副部長より、2012年度の就職活動におけるポイントや支援策について説明が行われました。その後は学部別に個別相談会が催され、ご父母の皆さまの疑問や不安を払しょくするべく、質疑応答が行われました。

採用動向の変化に伴い あきらめない気持ちが重要に

まず、東日本大震災の影響について、「一部の企業では選考時期を大きく後ろにずらす動きが出ており、金融業界では5月スタート、商社やメーカーでは6月スタートという企業もあるため、就職活動の長期化が予想されます」と報告。「厚生労働省の働きかけもあって、多くの企業では採用数に大きな変化はないと言われていますが、実際には不透明であり、安易に信じてよいかどうかは微妙なところ。楽観視せず、今後の動向に注目していきたい」と述べられました。

また、そうした状況下での就職活動に関して、「決してあきらめず、粘り強く取り組む姿勢が大切です。我々の役割は、

学生が『変化をチャンスに変える』という発想を持てるよう、背中を押すことだと考えています」と強調。さらに「大学は、しっかりとしたキャリアデザインを描くための価値観を築く場。正課の授業で専門分野の知識を修得し、さまざまな課外活動でプラスαの経験を積む。その両方を成して初めて就職活動に臨むことができるのです」と語られました。

キャリアセンターを活用し 『団体戦』で臨むことが大切

次に、キャリアセンターの幅広い支援体制が紹介されました。特に今年度は、流動的な状況に柔軟に対応することを目的とし、キャリアカウンセラーの増員による相談体制の強化、就職支援臨時企画

の実施などによる迅速な情報提供の徹底に注力しています。「インターネットや雑誌・書籍の情報だけを信じて個人で動くのは危険です。まずはキャリアセンターが運営する『キャンパスウェブ』に登録し、最新の正確な情報をキャッチしてください。そして、教職員、OB・OGといった先輩も含めた幅広いネットワークを活かしながら『団体戦』で臨むことが重要です」と述べられました。



大学院進学説明会

衣笠キャンパスでは、ますます関心が高まる文社系大学院、および法科大学院（ロースクール）の説明会を開催。立命館大学独自のカリキュラムや教育・プログラムの特長が紹介されました。さらに将来の進路・就職やそれを後押しする支援体制についても説明されました。

文社系大学院

近年大学院への進学者は、ますます増加する傾向にあり、文社系大学院への関心も年々高まっています。そうした現状を紹介しつつ、春日井 敏之教学部長は、「高度な技術や専門知識はもとより、より複雑で多様な問題に対処できる総合的・学際的な力を持った人材の輩出が期待されるようになっていきます」と大学院に求められる役割を解説しました。

立命館大学の大学院では、現在17の研究科で約3,430名が学んでいます。

「専門分野での研究を深めるためにも注力していることは、基本的スキルの育成です。具体的には、英文での要約、コミュニケーション、研究計画書

やシラバスの作成といった、文社系、理系を問わず大学院生全員に共通する基礎的なトレーニングを重視し、その上で専門性を磨けるようカリキュラムを編成しています。また研究力の高度化に加えて、社会人として必要な素養を育むキャリア形成プログラムも多数用意しています」と、説明されました。

もう一つ、グローバル化時代にあって重視していることは、国際力の養成です。

「本学では、海外へ出る機会を数多く提供する一方、1,240名以上もの留学生を迎え入れ、国際寮の計画も含めて、キャンパスには国際的な環境が整いつつあります。各国の留学生と共に学ぶ中で、豊かな国際性を育てることを大切にしています」と述べられました。

また全国の私立大学の中でもトップレベルといわれる充実した奨学金制度にも話は及びました。在学する大学院生の約半数が何らかの奨学金を受給。さらに今年度は、経済的な理由で修学が困難な学生を支



援する奨学金制度も新たに設置しました。大学院前期課程修了後は、民間企業への就職の他、国家Ⅰ・Ⅱ種公務員や教職の専修免許の取得、あるいはさらに後期課程へ進学し、研究者になるなど、多様な進路が拓けます。

「しかし、ただ大学院に進学したという事実だけで進路が拓けるほど、現実には甘くはありません。大学院進学が自分にとってどのような意味を持つのか、また大学院で培った力を人類、社会の課題に対して、どのように貢献できるかをしっかり考え、目的を明確にして大学院へ進学することをお勧めします」と、結ばれました。



Student's Voice

深谷 弘和 さん
社会学研究科2回生

前期・後期課程の5年間を一貫して学ぶ研究コースに在籍し、研究者を志しています。大学院では障がい者福祉に着目し、「障がい者施設で働く労働者のメンタルヘルスケア」について研究しています。幅広い学問領域を包含する社会学研究科。多彩な分野を研究する先生や大学院生、留学生などと交流し、新たな視点や刺激を得られるのが魅力です。いつか大学で社会福祉を教えることを目標に、現在ティーチングアシスタントも務めています。



Student's Voice

八原 瑠里 さん
文学研究科1回生

中学・高校の国語の専修免許を取得するのが、私の目標。大学院で専門性を磨きながらも、教員採用試験のための勉強時間もしっかり確保したいと思い、4回生から大学院の授業を受けられる大学院進学プログラムを受験しました。講義形式の授業が中心だった学部と違い、大学院では、自ら研究したことを発表する演習がほとんど。こうした学びの中で、相手に自分の考えを伝えるという教師として不可欠な力が培われているなと感じています。



Student's Voice

小茂田 慧 さん
国際関係研究科2回生

国際関係研究科は、数多くの留学生が学ぶ国際色豊かな大学院です。学内でも英語を使わない日はありません。大学院での2年間をより充実したものにしたかったので、DMDP*を利用してスペインのグラナダ大学へ留学しました。日本語と英語の両方で修士論文を仕上げるのはハードでしたが、頑張った分だけ得るものもたくさんありました。修了後は、三菱商事に就職する予定。次は日本のエネルギー政策に貢献したいと、意欲に燃えています。



*DMDP: 大学院共同学位プログラム。所定の要件を満たせば、2年間で留学先の大学院と立命館大学院の両方の学位を取得できる。



法科大学院



「地球市民
法曹の養成」
を教学理念に
掲げる立命館
大学法科大学
院。教学理念
に基づき、グ
ローバル社会
に対応できる

国際的な視野、地域の人々に奉仕する心、法と人間の営みや生活感覚との間に横たわらずれを是正できる力、そして高い専門性の4つを備え、社会の公正と正義の実現を支援する人材の育成を目指しています。説明会では、山田泰弘副研究科長から、本法科大学院ならではの特長・強みが紹介されました。

その一つが、確かな基礎力量を形成する段階的学習です。「1年次は双方向授業で基礎科目を学び、2年次には演習科目を通して、具体的な事案から法的な問題を読み取る力を養成します。さらに3年次は実務総合演習や実習を通してより実践的な力を育みます」と解説されました。

もう一つの特長は、司法試験の選択科目に合わせ、また法曹になってから強みとなり得る専門特性を育むことを目的に、4つ分野に分かれて専門法曹養成プログラムを配置している点です。加え

て、実習系科目を必修としている点も強みの一つ。現実の法律相談に乗る『リーガル・クリニック』や法律事務所などで実務を経験するエクスターンシップをすべての学生が経験します。また国際的な視野の必要性についても、強調されました。

本学では、アメリカン大学のロースクールと提携し、ワシントンでアメリカの司法制度を学ぶワシントンセミナー（外国法務演習）や、外国人学生と共に英語で日本の法律を学ぶ「京都セミナー」といった科目群も開講しています。

「最大の強みは、充実したサポート体制です。入学前プログラムの提供に始まり、在学中は、熱意あふれる教員が指導する少人数制の授業やオフィスアワー、



現役弁護士が試験対策を指南する弁護士ゼミを用意。さらに修了後も3年間は、在学生と同様の施設やサポートを提供するなど、入学前から修了後まで司法試験合格を後押しします」と、解説。その他、自習室や図書館、全学生一人ひとりに与えられる自習スペースといった充実の施設や全国トップクラスの奨学金制度、入学試験などについても説明されました。

こうした手厚い支援と学生の努力の結果、これまでに数多くの新司法試験合格者を輩出。既修者の合格率は累計で45.5%にのぼり、未修者の合格率も年々高まっています。「司法試験が難関であることに変わりはありません。しかし挑戦するに値する素晴らしい仕事です」と述べられ、法曹を志す学生へエールが送られました。

Student's Voice

田嶋 明日香 さん

弁護士（法科大学院既修コース）・2009年度新司法試験合格

司法修習を終え、今年1月から滋賀県草津市にある法律事務所でも新米弁護士として働いています。まだまだ悪戦苦闘の日々。先日、マンションの住民同士のトラブル解決に携わり、依頼者の方から感謝の言葉をいただき、弁護士としてのやりがいを感じ始めているところです。立命館大学の法科大学院のすばらしいところは、学生のやる気を上手に伸ばしてくれること。どの授業も先生が非常に熱心で、自ずとやる気が湧いてきます。授業は少人数制。毎回必ず発言が求められるので、予習や課題の準備を怠ることはできません。勉強する以外の時間はほとんどないハードな毎日でしたが、一生懸命授業についていくうち、気がつけば力が伸びていました。奨学金制度が整っていたことも心強かったです。こうしたサポートのおかげで、夢にチャレンジすることができたと感謝しています。



大学院進学説明会

経済学研究科・経営学研究科・スポーツ健康科学研究科の社系大学院と、テクノロジー・マネジメント研究科 (MOT大学院)、理工学研究科、2012年に新設予定の情報理工学研究科・生命科学研究科を含めた理工系大学院に分かれて進学説明会が開催されました。また、前期課程・後期課程の大学院生による体験談も披露されました。



■ 社系大学院

石井秀則教学部長から、2012年より立命館の大学院が19研究科となることが説明され、社系に関連する大学院として、経営学研究科、経済学研究科、スポーツ健康科学研究科、公務研究科、MOT大学院などが紹介されました。世界の企業では大学院の修士・博士の学位を持つ人が数多く活躍しており、グローバル化が進む昨今、ビジネスの場面において、そうした相手と渡り合うための国際的通用性がますます重要になっています。「単



に修士を取るだけではなく、社会で自信を持ってアピールできるだけの力を培って修了してほしい」と、大学院進学に求められる心得が示されました。

次いで、経済学・経営学の両研究科の特性について「国際社会で通用する人材を養成することが目標。海外の大学とも多数連携し、数多くの留学生が在籍しているのが特徴です。また朱雀キャンパスには、国家公務員Ⅰ種を目指す大学院として公務研究科があります。厳しい社会情勢の中、これらの研究科を目指す人も少なくありません。加えて経済



学研究科には、税理士をめざすコースも設置しています」と解説。さらに、近年の大学院へのニーズの高まりを受け、キャリアプランに応じた多様な学びを展開する中で、2010年度からは院生対象の『自己力向上支援プログラム』も実施していることが報告されました。

Student's Voice

岡崎 滋樹 さん
経済学研究科 博士課程前期課程2回生

国際経済学科在籍中に訪れた台湾を徹底的に研究したいというのが進学の原因です。研究方法や文章作成能力などにおいて高いレベルが求められるので大変ではありますが、それを乗り越えることで、社会が大学院生に期待する力が身につくのだと考えています。今年9月から1年間、台湾に留学することを決めました。研究と語学を究め、後期課程への進学を目指しています。



Student's Voice

笠井知行 さん
経営学研究科 博士課程前期課程2回生 (銀行内定)

いつか保育園を開業したいとの思いから、産業社会学部で保育領域を学び、大学院ではビジネス戦略を研究してきました。大学院で何かを得るためには、主体的であることが大切です。私は常に、社会人の同期といかに同じフィールドに立つかを考えて過ごしてきました。結果、論理的思考力や情報集約力などが養われ、自分の付加価値を高めることができたことと自負しています。



MOT大学院

テクノロジー・マネジメント研究科は、MOT（技術経営）の主要な分野を網羅したカリキュラム、全国でも珍しい博士課程後期課程を設置する、関西で唯一の本格的なMOT大学院として、『経営マインドのある技術者』『技術を最大限に活かせる経営者』の育成を目指しています。講演に立った田尾啓一教授から、その基本理念の実現に向けた、「理論」と「実践」を融合させた教育体制が紹介されまし



た。「専任教員には、弁護士、弁理士、公認会計士など、MOTの実務経験が豊富な人材が多様に揃っています。その中で幅広く吸収できるよう、一つの研究室を軸としながらも、複数の研究室と関わって知見を広げていくスタイルを導入しています」と解説。また、プレゼンテーションやディスカッションに重点を置いた科目を数多く展開していること、企業の指導のもとで3～6ヵ月間に及び課題解決に向けた研究に取り組む長期企業実習を実施していることなどにも触れ、「学生からは、これらのカリキュラムを通して『就職力』が培われるとの声が聞かれます。実際に多くの卒業生が大手企業に就職しており、メーカーはもちろん、金融機関、コンサルティング会社、IT企業、商社、官公庁など、さまざまなフィールドで活躍中です」と、その高い就職率と

幅広い進路が語られました。

続いて、入試制度や入試日程に関する説明が行われました。

Student's Voice

岡村 哲史 さん

テクノロジー・マネジメント研究科
博士課程前期課程2回生
西日本電信電話株式会社 内定

情報理工学部で培った視野をさらに広げ、技術の付加価値を創造したいと考え進学しました。異なる専門知識を持つ理系出身者、文系出身者、社会人学生、留学生と接する中で、自らの可能性を広げられるのが魅力です。今後は、MOT大学院だからこそ得られたマネジメント視点を発揮し、社会のニーズや課題解決につながる技術的なサービスの開発や通信インフラの構築に携わりたいと考えています。



理工系大学院

総合理工学院の深尾浩次学院長補佐（理工学部教授）が登壇し、2012年4月から、理工学研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科の3研究科に再編される予定であることが明かされました。

理工系大学院では、「自然科学の確かな知識と研究能力」「情報処理能力」「専門領域における問題解決能力」「英語力も含めたコミュニケーション能力」の育成を重視しています。「大学院で研究や学会での発表に取り組むことで、高度な知識・スキルやそうした能力はもちろん、マネジメント能力、プレゼンテーション能力なども身につきます。学会への参加は大きなストレスを伴うものの、それを乗り越えれば人間的にも大きく成長でき、将来に通じる人脈を広げることも可能です」と述べられました。



就職に関しては、「本学の2010年度の実績では、大企業への就職率、進路の主流となるメーカーへの就職率ともに大学院卒が高く、中央省庁でも大学院卒の採用が年々増加傾向にあるため、大学院に進学した方が有利な状況にある」と解説。実社会のニーズを踏まえた発想や国際的な視野を身につけることを目的とした『産学連携コーオプ型高度人材育成プログラム』により、博士課程後期課程か

ら企業へ就職する道も広がりつつあることが報告されました。また、入試制度や奨学金についても述べられました。

Student's Voice

松宮 かおる さん

理工学研究科
博士課程後期課程1回生

進学を決意したのは、学部で建築・都市を学ばなかであらゆる社会問題が見えてきて、「専門性を高め、社会とより深く関わりたい」と考えるようになったからです。大学院は、自分の興味に沿ってとことん挑戦できる場所。研究活動を経て、専門知識以外に、論理的思考力、企画提案力、人脈を形成する力など、問題解決に向けた提案につながる、さまざまな素養が磨かれました。



スキルアップ説明会

英語をはじめ、さまざまな外国語講座・プログラムを提供するCLA（言語習得センター）、公務員試験合格や各種難関国家資格取得をサポートするエクステンションセンターなど、正課以外で学生の学びを後押しする体制を紹介。

全国でも有数の実績を誇る講座やセンターの特長が解説されました。

CLA講座

「2011年から小学校で英語の授業が開始されたり、英語を公用語とする日本企業が登場するなど、国際化の流れはいまや急速に進んでいます」と、外国語習得の重要性が語られたことを皮切りに、CLA（言語習得センター）の目的やその特長が紹介されました。CLAが提供するものは、「正課の授業プラスα」の学び。英語の他、ドイツ語、フランス語などさまざまな言語の講座を開講しています。

「大手企業でも教える講師など、経験豊富な講師陣が講座を担当。キャンパス内で講座が開かれ、授業の空き時間を有効に活用しながら共通の目的を持つ仲間と一緒に学べる上、外部の講座と比べて安価な授業料を設定しているので経済的負担も抑えられます」と、解説されました。

「就職活動や将来の仕事に生かす」、「留

学して知見を広げることを目指す」、あるいは「大学院進学を視野に入れ、アカデミックな英語力を身につけたい」など、さまざまな目的に応じたクラスを用意。また講座はレベル別に編成され、自分の能力に合わせてより効率的に語学力を伸ばすことができます。

さらに本学学生なら1万4千名まで無料で登録できるインターネット自主学习教材「ぎゅっとe」についても紹介されました。



Student's Voice

由比 あすか さん
文学部3回生

2回生からTOEFL®講座を受講。先生が非常に熱心で、私も意欲を持って授業に臨むことができました。リスニング用CDを借りて通学中の電車内で聞いて復習するなど、時間を有効に活用。メキメキと英語力が上がり、学ぶのが楽しくなりました。2010年冬には、『ひろしま』という映画の英語の翻訳にも携わりました。ネイティブのニュアンスや適切な口



語表現を選ぶ難しさを知りながら、培った英語力を試すいい機会となりました。

エクステンション講座

エクステンションセンターでは、学生の興味や関心を広げ、将来の多様な選択肢を提供することを目的に、公務員講座、公認会計士講座、法曹講座といった難関試験に備える講座、スキルアップや進路・就職を支援する各種講座など、20以上もの講座を開講しています。

その一つが「公務員講座」です。「1、2回生の入門コースから3回生の試験対策講座、さらには筆記試験合格後も想定



し、面接対策やモチベーションアップ企画を実施。合格プラスαのサポートで、厳しい状況の突破を後押ししています」

その結果、2010年度は、国家Ⅰ種合格13名、国家Ⅱ種合格138名、2011年度一次試験突破者56名と、全国の私立大学の中でもトップクラスの合格率を維持しています。その他、公認会計士試験や法科大学院入学試験などにおいても、講座受講者の高い合格実績が示されました。

「外部の専門学校などと比べて受講料を安価に設定。また正課授業と両立できるようカリキュラムを編成したり、DVDなどを貸し出し、授業をフォローするなど、支援体制も充実しています」とメリットを強調。「ぜひ一度窓口にご相談に来てください」と、勧められました。

Student's Voice

小島 由里奈 さん
京都市役所勤務
2011年3月産業社会学部卒業

公務員試験に合格し、この春から京都市の企画・広報の仕事に携わっています。在学中に、公務員講座を受講。正課の



授業に合わせた講義編成で、試験期間中は大学の勉強に集中できるし、講義に出られない時にはDVDで復習できるなど、正課の学びと両立できたのが良かったです。友達と顔を合わせ、息抜きできたこと、試験前の苦しい時、父から「必死に頑張らなければならない時がある」と励まされたことが、支えになりました。

留学説明会

「海外留学といえば立命館大学」といわれるほど充実している留学プログラム。その種類は多様で、世界26カ国・123の大学に約2,000名の学生を送り出すことが可能です。企業のグローバル化が進み、高い語学力や異文化適応力を養う海外留学に関心が高まる現状とともに、本学の留学プログラムについて紹介されました。

留学経験が自主性を育み 環境適応力を高める

最初に「何のために留学するのかを、よく検討することが重要」と述べた中川優子文学部教授・国際部副部長から、留学の意義が語られました。「留学は、語学力の向上はもとより、異文化に対する適応力を伸ばす絶好の機会でもあります。留学先では、多くの学生が非常にハードな学習を迫られます。その中で『限界まで頑張る』といった貴重な経験を積むことができます。またさまざまな問題に直面し、自ら処理することで自主性が養われ、社会人としての自覚が身につきます。その結果、学生はひと回り成長し、大人になって帰ってきます」と留学中の学生たちを訪れた際に目の当たりにした、彼らの成長のエピソードが披露されました。

また、日本企業のグローバル化も指摘され、それにみあった能力を養うのに海外留学は絶好の機会であると強調されました。

「本学の海外留学プログラムは、授業の一貫であることを忘れないください。時折、事前のオリエンテーションをさぼる学生が見受けられますが、これも



大事なお手前準備です。もう一つのお願いは、お子さんを見守ってほしいということ。学生たちは現地で起こった諸問題に対し、周囲に相談するなどして解決方法を見出しています。安易に手助けせずに、努力をさせてください」と語られました。

早期の準備で 最適なプログラム選択を

続いて、国際教育センターから留学プログラムの概要が説明されました。「留学プログラムは、現地の学生と専攻分野の授業を受けるアドバンスト型、語学研修と外国語による専門講義を受けるモチベーション向上型、初歩の語学レベルから参加できるイニシエーション型の3つに分かれています。短期プログラムは半年以上前から、長期プログラムは一年以上前から募集が始まります。長期およびレベルの高

いプログラムには語学要件があるので早期からの準備が必要です」と解説。

そして、全体を通じた留学プログラムの特徴として、「すべてのプログラムで単位取得が可能です。参加費用はさまざまですが、イニシエーション型とモチベーション向上型は、現地の授業料・往復の渡航費・宿舍費が必要です。ただし、交換留学については現地での授業料は不要です」と説明。さらに、総額約3億円の奨学金制度を準備していると述べられました。

最後に、国際教育センターでは、留学経験者が個別相談に対応する留学相談ブースの設置をはじめ、渡航前の支援・指導や健康管理の注意、危機管理の注意など、さまざまな留学支援を実施していることが伝えられました。



Student's Voice

田板 翔平 さん
立命館・ボストン大学 「英語研修」プログラム・理工学部4回生

2回生の春休みに1か月間、ボストン大学へ留学。留学説明会で長期休暇が利用でき、語学レベルが自分に合うプログラムを見つけました。留学で得たことは、積極性の向上、価値観の広がり、モチベーションの向上の3つ。帰国後は、「どんなことでもチャレンジすれば得るものがある」と考えるようになり、とても充実しています。就職活動では、自分の長所の裏づけとして、留学経験を説得力をもって話すことができ、数社から内定をいただきました。企業の海外進出に伴い、どの業種、職種でも必要とされる英語力をもっと身につけたいです。



Student's Voice

小鉢 徹 さん
アメリカ・イリノイカレッジ 交換留学・経営学部4回生

海外の人とコミュニケーションをとり、海外に適応する能力を得たい。また、ビジネスレベルの英語力を身につけ、本場で経営学を学びたいと考え、アメリカへ留学しました。授業は現地の学生と一緒に、課題が多く、授業についていくために毎日図書館で2時間以上勉強しました。一方、好きなテニスのクラブに入り、他校の学生とも交流。ハロウィーンやダンスパーティなどのイベントも多く、長期休暇にヨーロッパやニューヨークへの旅を満喫しました。留学先で何事も自分で解決した経験から自立心が生まれ、帰国後の自信につながっています。



教職説明会

1993年に全国に先駆けて教職支援センターを設立した立命館大学。

現在も他校のモデルとして全国でもトップクラスの合格者を輩出しています。

そのノウハウをもとに、教職試験について、また昨年度の状況や求められる人材像について、小泉教職支援センター主任から解説されました。

教職志望者数と

合格者数から見える

近年の教職採用試験の傾向

「全国で昨年教職採用試験を受けた人数は、小学校から高校まで、養護教諭も含めると17万4,300人でした。受験者数が17万人を突破したのは過去初めてのことです。今までもそうですが、景気が良くないと公務員・教員志望者が増えます」と、昨年度の状況を踏まえ、景気によって志望者数が左右されると分析した小泉教職支援センター主任。

「教育の現場は非常に大変だというニュースを聞かれると思います。それでも教育実習に行くまで迷っていた学生たちの多くが、教育実習を終えて帰ってくると、みちがえるほど生き生きとして、『やっぱり先生になりたい』と言うのです」と、その魅力が述べられました。

続いて昨年度の受験者数に対する合格者数を、主な都道府県別に詳しく説明されました。「教職採用試験の倍率は、昨年度全体で6.1倍。小学校には5万4,894名が受験して1万2,482名合格、中学校は各教科すべて合わせて約5万7千名が受験し、約7,500名が合格しました。競争率は7.6倍です。高等学校は3万5千名が受けて約3,700名が合格し、競争率は9.5倍でした。ここ数年はほとんどの教科で募集していますが、年度によっては『今

年は高校の公民は募集しない』など、年度により採用のない科目もあります」。

また特別支援学校には約8,300名が受験し、2千名近くが合格したことにも触られました。近年、発達障害や自閉症の子どもが増えていることに関連し、需要が高まっていると述べられました。「さらに小学校・中学校については、1クラス35人の小規模教育が進んでおり、都道府県独自に教員を採用する動きが出てきています。そうした中で、小学校教員の需要も高まっています」と説明されました。



教員に必要な3つの要素

「ただ採用試験を受けるだけで、教育に対する情熱のない学生は、試験に合格してもやっていけません。教師に必要な3つの要素、これを今からきちっと持っていることが大切です。一つは、自分がどんな教師になりたいのか、自分の目指す教師像をしっかり持つこと。例えば小学校や中学校で出会った先生など具体的に

モデルになる先生がいればありがたいです。そしてなぜ、教師になりたいのかというしっかりとした志望動機。それからなぜ、その学校で、その教科を担当したいのか。例えば教科を教えたいというだけでは塾の



先生でもいいわけです。自分が教えたい教科を通して、どういう子どもを育てたいのかをきちっと持っていてほしいですね。この3つをしっかりと持っていれば、長い教師人生で揺らぐことはないと思います。今、途中でリタイアしたり、うつ病など心の病になって辞めてしまう教員が多く、長く定着しないことが問題になっています。教員を志望する学生のご家庭では、その辺りの問題も含めて、じっくりと話し合ってもらいたいと思います」。

教職課程について、 また教職支援センターの 取り組み

まず教育委員会の求める教師像について、「専門性と幅広い教養、実践的指導力、そして総合的な人間力を持つ教師」と説明され、専門分野を深く学べる点が、本学の強みだと述べられました。

続いて教員免許を取得するために必要な教職課程の単位や科目、インターンシップ制度や試験内容などについて詳しく解説されました。最後に、教職支援センターについて「情報提供だけでなく、試験の過去問題もすべての学生が閲覧できますし、採用試験に対応した学内模試、また教員採用試験の面接試験などの対策も実施しています。勉強の方法やどこを受験すればいいのかなど、学生からの相談業務を大切にしているので、ぜひ活用していただきたい」と紹介されました。



キャンパスツアー

現役学生によるナビゲーションで、
 広大なびわこ・くさつキャンパスに点在する数多くの施設を見学。
 「どの学部の学生が、どのようなときに利用するのか」といった説明や、
 それらにまつわるエピソードが学生目線で語られ、リアルな大学生活が垣間見える貴重な機会となりました。

約20の施設を巡って 充実の学生生活を体感

6グループに分かれて実施されたキャンパスツアーでは、現役学生のキャンパスナビゲーターと一緒に、20ヵ所以上の施設を見学しました。まずは学生が自己紹介。「私の出身地、福岡から来られた方はいらっしゃいますか？」などと質問を投げかけ、和やかなムードでスタートしました。各施設を巡りながら、『アドセミナリオ』は、主に1、2回生の基礎演習や語学の授業で使われていて、どの学生にとっても馴染みのある施設なんですよ」など、ていねいに解説。移動中に掲示板の前を通った際には「休講・補講などの有無は、各自がここで確認しています」という説明が添えられ、また、キャンパス内に掲示されている公務員講座のポスターを見つけた時には、「私の先輩もこの講座を受けて頑張っているんですよ」と具体的なエピソードが紹介されました。さらに、「教授の研究室を訪れると、人生相談になりますね(笑)」『アクロスウィング』の国際交流ラウンジで留学の相談に乗ってもらい、とても参考に

なりました」など、学生自身の日常や体験も披露。参加者は興味深く聞き入りながら、気になる点について質問をすることで、学生生活に対する疑問・不安を一つひとつ解消していました。

ツアーの合間には、「関西圏外で、学生の出身地第1位は？」といった学生からの問いに答える『クイズコーナー』も用意。「全国から学生が集まっているので、友人との交流からも多くのことを学べます」など、立命館ならではの良さが語られたほか、学生が参加者の回答に絶妙の“ツッコミ”を入れるなど、笑いの渦に包まれるシーンも見られました。参加者は時間を追うごとにリラックス。学生とご父母、ご父母同士のコミュニケーションも活発になり、情報交換の側面からも有意義なひとときとなりました。

キャンパスナビゲーターは通常、大学見学に訪れた高校生へのキャンパスツアーなどを実施しています。その他、高校生向け企画のオープンキャンパスでは「オープンキャンパススタッフ」としてイベント運営や高校生へのキャンパスライフを

紹介する企画の実施など、様々な場面で高校生の進路選択のサポートを行っています。こうした学生スタッフ（キャンパスナビゲーター・オープンキャンパススタッフ）は総勢178名（衣笠、BKC*2010年度実績）で活動しています。

キャンパスナビゲーター
 経済学部3回生
 藤森 巴留花さん



キャンパスナビゲーターの他、1回生のサポートにあたるオリター、広報スタッフ、ボランティアなども経験してきた積極派。ツアー中は「お子様の学生生活で困っていることはありませんか？」と質問を投げかけ、参加者の疑問・不安の解消にも一役買っていました。

(びわこ・くさつキャンパスマップ)



学習・研究に使われる施設のほか、学生生活のサポートや課外活動のための施設も多彩。

アカデミック講演会

衣笠キャンパスでは「インタラクティブCG映像を支える最新技術」という演題で、大島登志一教授（映像学部）が登壇。インタラクティブ技術を駆使した映像の事例を交え、また身近なゲーム機のコントローラーを使ったデモンストレーションを交えながら、最先端の映像技術について解説しました。

互いの反応を 確認しながら行う インタラクティブ操作

例えばビデオゲームなど、ユーザーがシステムに対して何らかの操作をすると、システム側から何らかのフィードバックがある—そうした、システムの反応を確認しながら操作を行う「対話型操作」のことをインタラクション、インタラクティブなシステムといいます。自動車の運転も、あまり意識はされませんが、正しく車線の中央に車体が来るよう人間がハンドル操作でキープしているのです。つまり私たちが操作する機械は、たいていインタラクティブな機械と言えます。そしてユーザーとシステムのインタラクションをつかさどるのが、「インターフェイス」と呼ばれるものです。

これを踏まえると、今回お話す「インタラクティブ映像」とは、視聴者あるいは体験者の働きかけによって映像の内容、視覚風景が連続的に変化していくものということになります。パソコンやゲーム機のシステムの中にある映像世界を確認し、コントローラーなどで働きかけ、その映像をテレビモニターを通して視聴することになります。

インタラクティブな映像は、大きく分けると3つの技術からなっています。「インタラクティブ映像と3つのリアリティ」というもので、まず一つ目は見た目の写実的なリアリティです。その映像世界を写実的に再現して提供する、コンピューターグラフィックス技術です。二つ目は

挙動のリアリティです。映像内の動作がぎこちないと、リアリティは損なわれてしまいます。現実世界の中のある法則を真似てそれを模擬する、シミュレーションという技術になります。そして三つ目は体験のリアリティです。映像とのインタラクションをより快適に分かりやすく自然に行えるというもので、インターフェイス技術といわれるものです。

コンピューター グラフィックスを 活かした映像技術

コンピューターグラフィックスとは、コンピューターで映像を生成する技術のことですが、例えば物体の表面の質感や照明を当てた時にどういった見え方をするのかなどを計算によって精密に導き出す技術です。人物や動植物の場合、生き生きと見えないことが大きな課題となってきました。現在ではかなりリアルに再現できるようになり、とりわけ映画の世界で使われるようになってきました。

こうした技術を具体的に知ることのできる事例として、2010年に公開された映画『ベンジャミン・パトン 数奇な人生』という作品をご紹介します。ストーリーは、ブラッド・ピット演じる主人公が、老人の状態で生まれ、どんどん若返り、最後は赤ん坊になるというものです。老人から赤ん坊へと逆の成長過程を表現したいという要望から、コンピューターグラフィックスという方法が取られました。技術的にもすごいことをやってのけたため、公開当時は誰もコンピューターグラフィックスとは分かりませんでした。その後学会で発表され、大きな反響を得ました。こういった技術が今後どんどん活用されていくのだらうと思います。



人々の活動を支援する 今後の最先端技術

続いて体験のリアリティについて、映像と対話するインタラクション操作についてお話ししましょう。ファミリーコンピュータが登場した当時、コントローラーは至ってシンプルでした。それがどんどん複雑化する反面、ボタンを押すのではなく、動作で操作するという直感的で直接的な機能を持つゲーム機も登場しました。人間の動作情報をどうやってコンピューターに入力するかというと、初期には手にはめたグローブ型デバイスを通じてゲーム機に入力する方法から、昨今では手に持ったデバイス自体が動きを感知する方法、さらに何も持たずカメラで人の動きを認識させるという3つの方向性があります。ユーザーの姿を取り込み、CGを重ねるといった新しい遊び方もできるようになっています。

このように、いまや最先端のインタラクティブ映像技術を民生用途に活用できるところまで来ています。今後はさらにバーチャルリアリティやその進化形、仮想世界と現実世界をリアルタイムに合成させたミクストリアリティが発展していくでしょう。さらにはゲームだけでなく、医療、産業、通信など、実世界における人々の活動を支援する技術としても実用化が進んでいくと考えています。



アカデミック講演会

「立命館大学BKCならびに、びわこ南部エリアの生体医工学研究」と題して、
牧川方昭理工学部教授が講演しました。

高齢化が加速する日本社会を見据えて、病院医療の高度化や健康寿命の延伸を支援する医工学研究が注目されています。
一大研究拠点・びわこ南部エリアにある本学BKCも大きな役割を果たしています。

ライフ・イノベーションによる 健康大国戦略

科学技術創造立国を目指し、産学連携プロジェクトを推進してきた日本政府。立命館大学も、BKC開学時から政府が重視する分野の研究を推進し、産学連携に力を入れてきました。さらに昨年、新政権から出された新成長戦略には、重点分野として「環境」「エネルギー」「健康」が挙げられ、ライフ・イノベーション（医療・介護分野革新）を通じて健康大国を築くことが期待されています。

BKCがある滋賀県の「びわこ南部エリア」は、医療、電子、機械分野を扱う企業や、医学・理工系大学が存在する一大研究拠点です。BKCには、外部との共同研究を効率的に進める体制が整っており、ライフ・イノベーションを研究するセンターもたくさんあります。最近では、滋賀県がBKCにつくり、本学が運営する「ヒューマン&テクノロジー“SHIGA”新産業創出拠点」との連携を強化し、先端医療技術研究を推進しています。

また、BKCの近くにある国立滋賀医科大学とは、共同でさまざまな取り組みを行っています。滋賀県の都市エリア産学官連携促進事業は代表的なプロジェクトです。その取り組みをもとに医工連携ものづくり集団の形成を目指す「しが医工

ものづくり産学官連携拠点」が滋賀県に設置されました。

小さなロボットが活躍する 近未来の医療

昨年、経済産業省の研究機関が「2030年のくらしと医療機器」を示したイラスト図を出しました。例えば、つけるだけで心電図や脳波を24時間測定する腕時計型の通信アラーム機能付きバイタルセンサー、ネットワークにつながって、いろんなことを教えてくれるコンシェルジュ・ロボット、トイレや入浴するだけで健康状態がわかる測定器、カプセル内視鏡など小型の往診用器具、救急車内で診断・治療が可能なプレ・ホスピタルなど…。その中には本学が行ってきた研究もたくさん入っています。

びわこ南部エリアにおける病院医療高度化の取り組みとしては、本学と滋賀医科大学が連携して開発した、診断・治療のためのマイクロ体内ロボットがあります。理工学部には、マイクロマシン（超小型機械）を作る設備が備わっています。ここで体内を移動する小さなロボットをつくり、医療に活かそうと考えたのが発端でした。ロボットが臓器を押し広げて移動するための装備を考案したのを

はじめ、スムーズに移動するための吸盤に投薬機能をつけた内視鏡や、血管の中を進んで物をつかめるマイクロ鉗子、先端から電子波を出して止血するマイクロ波プローブなど、開発の成果は多岐にわたっています。

また、本学と京都大学の共同研究として、新薬開発の最大の壁である副作用を回避するマイクロ薬剤輸送ロボットの開発にも着手

しています。薬を埋め込んだカプセルを、患部付近で超音波や光で破るという仕組みです。そのほか、マルチ電極を用いて体の深部の筋、神経を刺激する研究なども行われています。



日常生活の計測データが 健康寿命の延伸を支える

長期の健康計測データから異常の兆候を発見する、自動車運転時の心臓発作を未然に発見してドライバーに知らせる、日常生活のデータをもとに医師が診断するなど、健康寿命の延伸を支援するためには、日常生活を計測する必要があります。その方法として、万歩計などに入っている加速度センサーの信号を利用することを考えています。そうすれば、人がどこを歩いているか、電車に乗っているのかなどがわかります。また、服の上からや、薄い布を敷いたベッドに寝たまま、自動車運転中에서도心電図を測ることが可能です。さらには、人の意思や気分を測って知らせる測定器を開発中です。日常生活の行動を計測して眺めると、その人が何をしようとしているかを言い当てることも可能になります。

このようにライフ・イノベーションを目指して、医工連携のさまざまな取り組みを成功させてきたびわこ南部エリアですが、先進的な研究開発を進めるための人材育成は欠かすことができません。その大きな役割も本学が担っているのです。



学生生活講演会

学生がどのような学生生活を送り、日々何を感じているのかなどを紹介する学生生活講演会。

今回は「映像制作から見る学生の過去、現在、未来」と題し、学生が制作した19分間の映像作品を上映。

映像学部の鈴木准教授がお話するというスタイルの、興味深い講演会となりました。

研究を通して見る 学生生活



大学の授業やクラブ活動、アルバイト、ボランティアなど大学で学生が取り組む活動はさまざまありますが、今回は、映像学部の学生による卒業制作を紹介します。学生の研究を見ていただくことで、学生生活全体を見通すことができるのではないかと思います。

映画誕生の頃から、人々は映像を通して異文化の記録と分析を行ってきました。ここでまず、文化人類学について説明しなければなりません。フィールドワーカー自分とは違う生活様式の中で生活し、できる限り他者の視野や考え方、価値観を身につけることから、社会を構成する規範や法、慣習などがどのように構築されているのかを解明することで、人間とは何なのかを研究し、そして他者を鏡にして自己をとらえるのが文化人類学です。何らかの対象を表現しようとしなければ、映像を作ることはできません。映像でとらえなければならないその「何か」をつかむためには、実は文化人類学が必要なのです。

自分の考えと現実社会との 矛盾に向き合うことが大切

今日は、3年次からとりかかる卒業制作の一つをご紹介します。学生は、1、2

年次を通して、撮影機材の扱い方、撮影方法といった基本的なスキルや、ものをとらえるときの視点を養うなど、映像制作の基盤となるものを身につけます。その成果を形にするのが、卒業制作です。

さて、今回ご紹介するのは、湯治（とうじ）

といわれる温泉治療を対象に研究した学生の作品です。彼女は当初、テーマ設定の段階で、水の根底的な力が、人を浄化し、再生させるのではないかと、さらにその力から信仰というものが生まれたのではないかと考え、湯治にたどり着きました。ところがフィールドワークに行き帰って来た彼女は、『これ以上研究できない』と、すっかり行き詰ってしまった様子。自分の思っていたことと現実が違ったようなのです。しかし実は、この現実を受け入れていく過程が非常に重要なのです。その過程をひも解き、テーマを再設定して、新たな課題に向き合う。私は、それを体験してほしいと思っています。自分の考えと社会との矛盾をフィールドワークの中で発見していくことは、人類学の研究だけではなく、社会を生きて行く中でも重要なことです。研究という場でなくても、学生は、日常の中でそうした行為を実践しているのではないのでしょうか。

紆余曲折を経て完成した作品の題は『退屈な再生 幸福な停滞』。別府温泉で非日常的な湯治を行う者と、日常化した湯治を営む者を対象とした記録です。撮



影対象者は3人。それぞれ何らかの事情で湯治場に滞在し続けたり、自宅へ戻ってまた湯治に来ることを繰り返したりと非日常的な時を過ごしています。記録を通じて彼女が発見したことは、彼らがそこにいなければならない理由は、外的なものではない、ということです。つまり彼女らにとって湯治とは、自分の居場所を確保するための口実ではないのかというのが、学生が導き出した結論でした。

学生生活を 有意義に過ごすこと

興味・関心を持って現場へ行き、さまざまな人と話し、自分が思っていたこととのギャップに悩み、整理するために研究を進める。先程も述べたとおり、これは文化人類学の研究に限らず、大学生活そのものといえます。学生たちは、生まれてから約22年間を経て社会へ出て行きます。大学生活はその最後の4年間です。これだけ自由で権利を持ち、かつ守られているような時間は他にありませんから、学生たちは大学生活という非日常的な時を過ごしているともいえます。この時間をどう過ごすか。それについて、ご父母の皆さまにも一緒に考えていただきたい。大学の中にはその時間を有効に使う機会がたくさん用意されています。学生たちには、それを大いに利用し、限られた時間を有意義に過ごしてほしいと願っています。

学生生活講演会

BKCでは、「大学で伸びる瞬間」というテーマで、白石晴樹生命科学部教授（学生部副部長）が講演しました。学生アンケートなどのデータと自らの経験をもとに、正課・課外活動における学生の成長や意識を分析。立命館大学の多様な環境や、豊かな学生生活のために実施されている学生支援を活用する重要性を語りました。

正課と課外活動の両輪で 自立した人間形成を育む

人生において、大学の4年間は自立した人間形成を育む非常に大切な時期です。学生（特に1回生）からよく聞かれる質問に、「なぜ大学で学ぶのか」ということが挙げられます。大学は、学問・教育の自由と真理を探究する場です。正課の学びを通して、社会の発展に必要な教養や知力が育まれます。また課外活動から得るものもたくさんあります。多様な他者との相互行為や協同作業で、自主性・協調性・社会性が養われ、豊かな人間性が形成されます。

文部科学省は大学卒業時に求められる学士力として、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」を、経産省は社会人基礎力として、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を挙げています。その他、「社会力」も必要です。これは門脇厚司筑波大学名誉教授が提唱するもので、人と人がつながって社会をつくる力を指します。加えて、大学時代にぜひ身につけてほしいのは、勉強や研究を進める方法です。研究は他者との交流なしに行うことはできません。協力して進めるところに学ぶことがあるのです。本学は西日本一の全国型大学で、衣笠、BKC両キャンパスに3万3千人もの学生が学んでいます。日本各地はもとよ

り、さまざまな国・地域から学生が集まり、学部・専攻も豊富です。多様な背景を持つ学生とコミュニケーションがとれる環境は、研究においても他者の力、専門外の力を合わせることを可能にします。本学ではこのような多様な環境を生かし、「総合的な人間力」を持つ学生を育てたいと考えています。

ピア・サポートによる 学生同士の学び合いと成長

過去に行った学生アンケートによると、正課授業で得られたものとして、「幅広い教養」と「専門知識」が挙げられています。一方、課外活動では「対人コミュニケーション」「問題解決能力」「創造力」「忍耐力」「集団をまとめる力」といった社会性が培われたと答えられています。すなわち、企業や社会が求めるコミュニケーション能力や問題解決能力は、課外活動を通して養われると、学生は感じているようです。

正課授業の意味も、大学では高校までとずいぶん異なります。高校までは先生が計画的に身につけさせてくれる学習で、大学では自ら「学問をする」ことが求められます。自分で問題点を見つけ、解答を出す姿勢なしには大学では成長できません。高校との違いに早く気づくことが、勉強で伸びるポイントだといえるでしょう。

課外活動には約70%の学生が参加しています。友達をつくるため、人間関係を築くために参加する学生も多いようです。課外活動には、クラブ・サークル活動のほかに、ボランティア活動、インターンシップ、海外留学、学内スタッフ活動（RAINBOWスタッフやライブラ



リースタッフ）などがあります。中でも新入生援助を行うオリター・エンターは本学独自の制度で、1回生の基礎演習などの授業に2、3回生の学生が入って、学習支援や生活相談などを行います。こうした学生同士が学び合い、ともに成長する「ピア・サポート」は、就職活動支援にもおよびます。例えば就職先が内定した4回生および大学院生によって構成されたJA（ジュニア・アドバイザー）が、下級生に対して就職懇談会や就職活動の体験報告会などを行う仕組みもあります。

成長する姿を見守り、 大人として接することが大切

自ら掲げた目標を苦勞して乗り越えた時、集団で何かを成し遂げた時、先輩、教職員、地域や社会の大人、さらには異文化や留学生と接した時、学生は自分の成長を感じます。正課授業に真摯に取り組むことでも成長しますが、課外活動も重要な役割を果たしています。課外活動については、いつからでも始められるものがあるので、ぜひ活用してください。

最後になりましたが、ご父母の皆さまには、自立を目指して模索するお子さまをぜひ見守っていただきたい。一人の大人として接することが、子どもの成長につながります。今日の話を中心に留めていただき、一度お子さまとお話をしていただけたらと思います。



データに見る学生実態



日本学生支援機構奨学金(旧日本育英会奨学金)は、国の奨学事業であり、経済援助を基本とした貸与制の奨学金です。種類は、第一種奨学金(無利子)、第二種奨学金(有利子)があり、本学では3人に1人が受給しています。本学の公的な制度の中では最も採用数の多い奨学金です。

近年は、第一種奨学金(無利子)の内示数(日本学生支援機構への大学からの推薦可能数)が減少傾向にありましたが、2011年度は増加し、採用率が上昇しました。

本学では、経済支援・学びと成長支援の2つの側面から独自の奨学金制度を充実させるとともに、学生・父母の学費等の負担を軽減するため、大学全体として、公費助成連絡会等を中心に、私立大学の財政的負担の軽減や国の奨学事業充実のための取り組みを進めています。

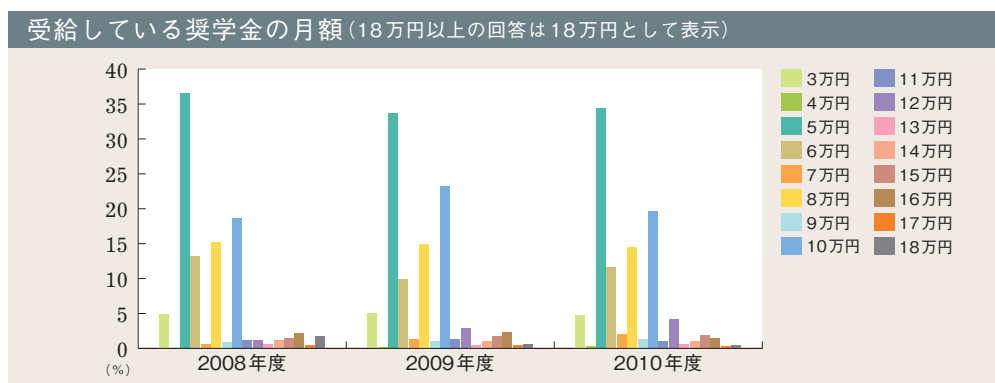
今回は、日本学生支援機構奨学金(以下、「奨学金」と記述)を受給して大学を卒業した学生のアンケート(満期者アンケート)から、奨学金が学生生活にどのような役割を果たしていたのかをご紹介します。

実施時期: 2010年12月
対象人数: 2,669人
回答人数: 2,592人
回答率: 97%

DATA 01

奨学金受給月額

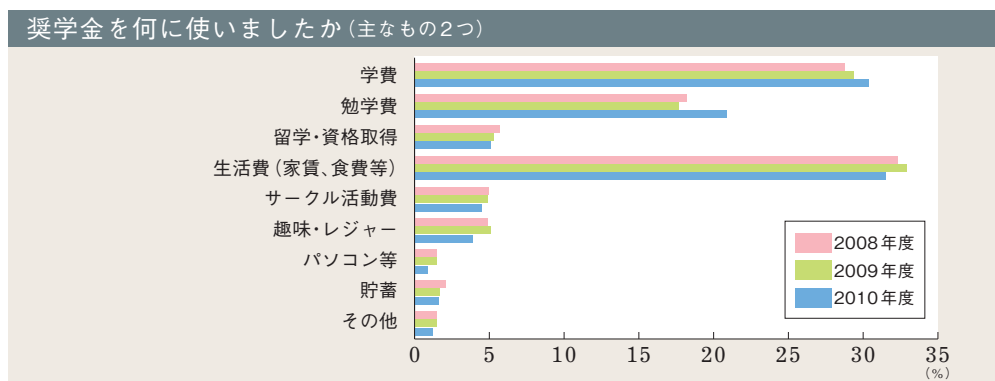
奨学金月額5万円が34.6%で最も多くなっています。月額10万円以上を受給している者が3割程度(35%)で、前年比で0.8%の増加となっています。月額は、第一種奨学金と第二種奨学金を併用(同時受給)している方の回答も含まれます。



DATA 02

奨学金の使途

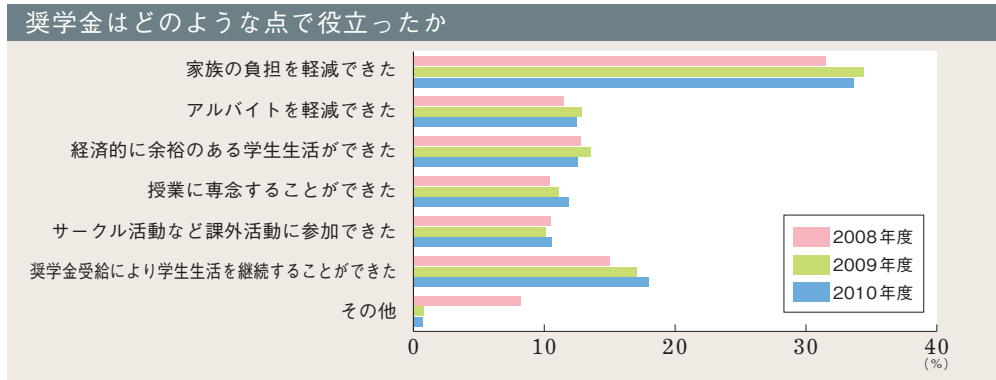
最も多かった回答は「生活費(家賃・食費等)」31.6%、次に多かった回答は「学費」30.4%で、この構図は経年的に見ても変わっていません。3番目に多かった回答「勉学費」20.9%を合わせると82.9%になり、その他の回答を見ても奨学金の趣旨に合致した使途となっていることが分かります。



DATA 03

奨学金の役立ち度 (複数回答可)

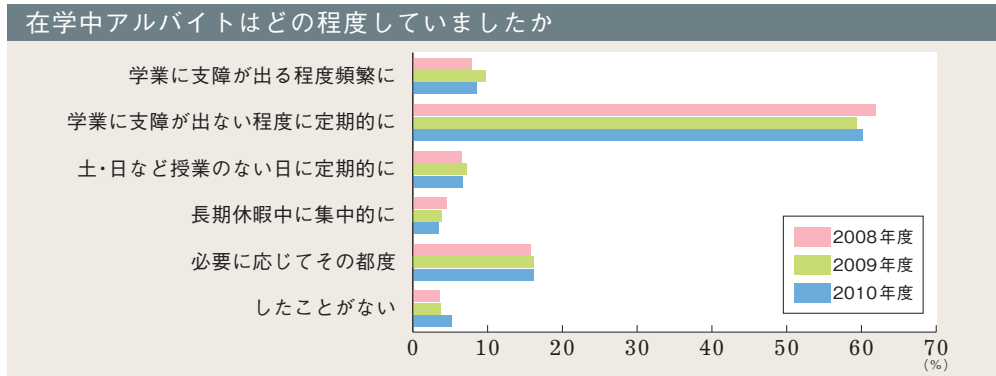
奨学金の役立ち度に関する回答で最も多かったのは「家族の負担軽減」33.8%、次に「学業生活を継続することができた」が多く、18.0%の回答でした。また、「授業に専念することができた」が増加傾向にあり、学生生活を送る上で奨学金が大変有効であったことがうかがえます。



DATA 04

アルバイトの程度

「学業に支障のない程度に定期的に」が約6割(60.2%)、一方で、約1割(8.5%)が「学業に支障が出る」ことを認識しつつ、アルバイトを続けていました。また、アルバイトに関して、長期休暇中以外の勤務時間については週に「4~8時間未満」18.2%、収入は「3~5万円未満」34%という回答が最も多い結果となりました。



東日本大震災における本学学生・ご家族の被災状況 ならびに大学・父母教育後援会による支援・支給状況について

今回の未曾有の災害にも関わらず、2011年3月時点の本学在学学生全員の無事が確認できました。しかし、残念なことに保証人様を亡くされた方や、人的被害はなかったものの、住居あるいはご父母の勤務先の被災により今後の生活に不安を抱く方が新生入・在学生ともおられます。このような方々に対し、大学ならびに父母教育後援会では以下の支援を行っております。

①非常災害による修学困難者に対する学費減免

被災状況により、年間学費の100%もしくは50%を減免するものです。6月末日までに22名の方への適用が決定しています。

②父母教育後援会 家計急変奨学金

今回の震災により収入が大幅に減少した方に対して年間学費の半分弱を支給する奨学金です。5月末日までに10名の方への支給が決定しています。

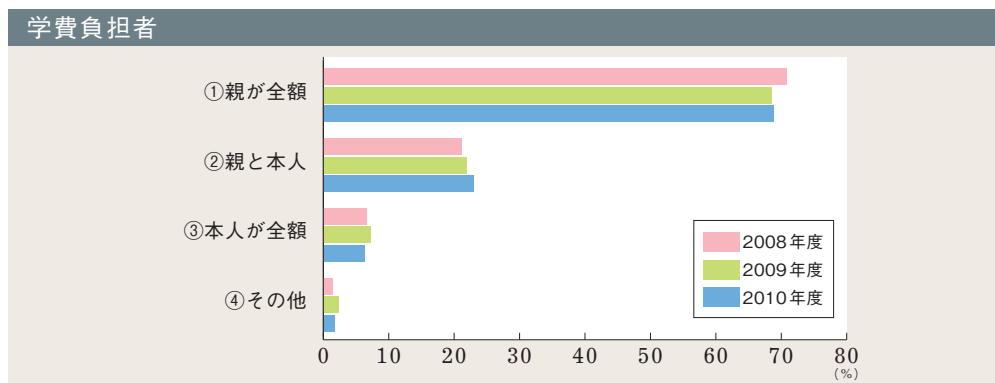
③父母教育後援会 災害見舞金

被災された方が対象で、支給金額は1世帯につき5万円です。6月末日までに30名の方から申請があり、30名全員が対象となっています。

DATA 05

学費の負担者

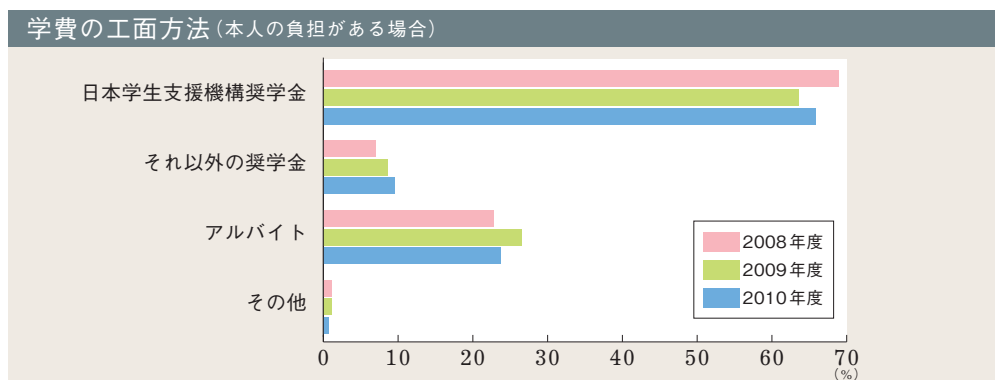
学費の負担に関しては「親が全額」が68.9%で昨年とほぼ変わらず、一方で「親と本人」が徐々に増加傾向にあります。



DATA 06

学費の工面方法

学生本人が学費の全額あるいは一部を負担している場合の収入源は「日本学生支援機構奨学金」が65.8%で圧倒的に多くっており、次に多かった回答は「アルバイト」23.7%ですが、「それ以外の奨学金」を利用する方も増加傾向にあります。本学では、独自の奨学金制度による経済的支援を充実させ、1人ひとりの学生生活をバックアップしています（詳細は、下記「立命館大学の奨学金制度」をご覧ください）。



立命館大学の奨学金制度



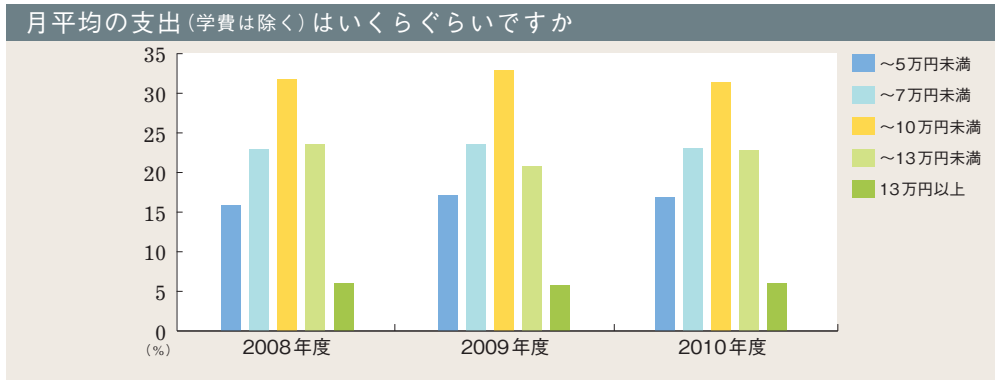
立命館大学では、全国トップクラスを誇る独自の奨学金制度を設けています。経済的理由で学費の援助を必要とする学生はもちろん、学業や課外活動、海外留学や資格取得などに意欲的に取り組む学生にも支援を行っています。学内の奨学金制度は、一部を除きすべて給付制で、2010年度は4,861名の学生が採用されています。2012年度は更なる経済支援型奨学金の充実をはかります。



DATA 07

自宅外通学者の生活費支出 (月額)

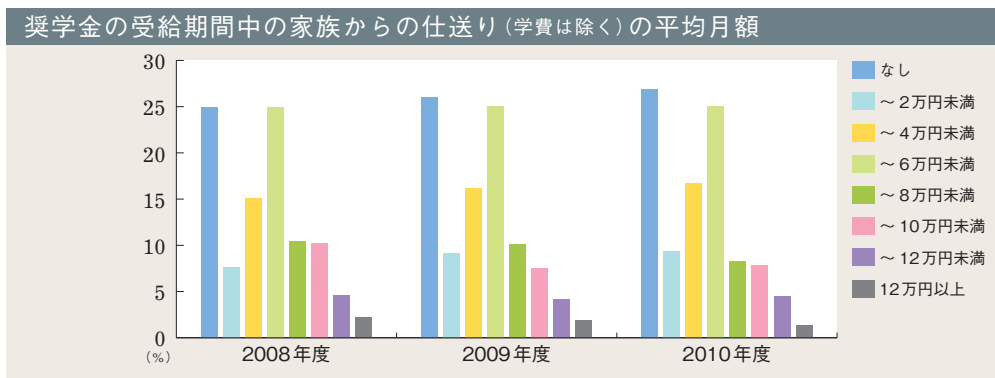
最も多かった回答は「7万円～10万円未満」31.2%でした。2010年度学生生活実態調査(立命館大学生協)では平均が約11万円と
なっていることから、奨学生は支出について、かなり抑制していると考えられます。



DATA 08

自宅外通学者の親からの仕送り月額

「仕送りなし」が26.6%で最も多く、以下の「7.奨学金受給月額」や「8.アルバイトの程度」との関連が考えられます。仕送りを受けている方のうち最も多かった回答は「6万円未満」25%でした。2010年度学生生活実態調査(立命館大学生協)での平均は約7万円であり、仕送り額についても奨学生の場合は少なくなっています。



アンケートに寄せられた声

- 奨学金のおかげで、両親への負担も軽減することが出来ました。また学業・学生生活・アルバイトの両立が可能になり、充実した4年間を送ることが出来ました。このまま制度を維持してほしいと思います。(経営学部・男)
- 奨学金を借りたことで、大学を無事卒業できます。とてもありがたく、後輩のためにも今後は返還に努めたいと思います。ただ、これからはもっと採用枠を増やし、かつ無利子(もしくは低利子)にしてほしいです。(法学部・女)
- 4年間、大変助かりました。奨学金で学費以外にも資格の勉強、書籍購入などに使わせていただきました。ありがとうございました。(経済学部・女)
- 日本学生支援機構奨学金と大学独自の修学奨励奨学金の併用によって、学業や就職活動に専念でき、自らの新しい一歩を踏み出したことをとても感謝しています。(政策科学部・男)

奨学金を受給した学生たちは、総じて奨学金を効率よく活用し、奨学金を中心に学生生活を組み立てていることがアンケート結果から分かりました。

奨学金の使途に関しても、趣旨に合致した目的で活用し、奨学金とアルバイト収入でバランス良く学生生活に必要な収入を得ることによって、親の負担を軽減しながら学業や課外活動などに奮闘する姿が浮かび上がってきました。

大学として、この学生たちの卒業後の活躍を心から応援したいものです。

親の心配、 子どものホンネ。

4年間、正課での学びや課外活動に全力で打ち込むことで、学生は着実に成長を遂げます。しかしその過程では、時に大きな挫折を味わったり、時に迷いや不安を覚えて立ち止まったり、どんな学生も壁を乗り越える経験を重ねています。かたわらで見守る父母の心配は尽きないことでしょう。

立命館大学で生き生きと学生生活を送り、ひと回り大きくなった学生と、父母が登場。学生の成長の陰にはどんな試練や父母の心配があったのか。ふだんの親子関係から父母の悩み、子どものホンネまでを語っていただきました。



優しさだけでなく、 自分の意思と行動する勇気を持って

親 → 赤坂葉子さん

赤坂圭太さん(経営学部4回生)

子 → 赤坂友里さん(スポーツ健康科学部2回生)

赤坂里奈さん(経営学部1回生)

case 1

長 男を筆頭に、3人の子どもが揃って立命館大学に進学しました。鳥取県の実家を離れ、現在大学の近くで一緒に暮らしています。病気になったり、問題が起こった時には、兄妹の誰かが知らせてくれるし、たいいていのことは3人で力を合わせて解決しているようなので、親としては安心ですね。



「夢に水を差さないこと」が、我が家の教育方針。子どもたちが「やりたい」と言ったことを精いっぱい応援する代わりに、自分で考え、自分で選ぶこと、そしてやると決めたことはやり抜くようにと教えてきました。ソフトボールに打ち込んできた2人の娘が、高校から親元を離れ、関西の強豪校に進学した時にも、反対しませんでした。

妹がいるせいか、とりわけ息子は気立ての優しい穏やかな性格。優しさだけでなく、自分の意思や行動する勇気も持ってほしいと常々願ってきました。そんな息子の成長を見たのは、彼が高校3年生の時です。自由な校風や多様な学びがあることを自分で調べ、立命館大学へ進学したいと言い出したんです。けれどそれは国公立大学を勧める高校の意向に沿いませんでした。進路指導の先生からずいぶん説得されたようですが、息子は最後まで自分の決意を曲げませんでした。

子どもが進もうとする道を阻むものが立ちはだかった時、親の役割は、とことん子どもの味方になること、そして、自分の体験に基づいて役に立つ情報を伝えることだと思っています。息子が就職活動を始めてからは、社会人として、大人として、仕事のことや将来について、対等に意見を交わせるようになってきました。厳しい雇用情勢の中、息子も苦戦している様子。けれど挫折や困難は、あって当たり前です。大切なのは、それを自分自身の力でどう克服するかではないでしょうか。息子ならきっと、勇気を持って道を切り拓いていける。そう信じているから、心配はしていません。

子どもの声



左・赤坂圭太さん ● 悩みがあると、同じ目線でどうすればいいかを一緒に考えてくれる。人生の先輩として、母は心強い存在です。けれど、最後には必ず「あなたはどうしたいの?」と意思を尊重してくれるからこそ、就職活動もあきらめずに納得できるまで頑張ろうと思えます。

中・赤坂友里さん ● 生活のこと、大学のこと、母とはよく電話やメールでやり取りします。何かあった時には、相談に乗ってくれる。そんな安心感があるから、いろんなことに挑戦できるんです。

右・赤坂里奈さん ● 姉を見て高校までソフトボールに打ち込み、兄に影響を受けて立命館大学の経営学部へ。兄と姉は私にとって良いお手本です。

周囲の人に支えられていると 気づいたことが成長

親 → 深谷正史さん・久子さん

子 → 深谷祐介さん(政策科学部4回生)

case 2

小 さい頃から誰とでもすぐ打ち解け、周囲からも自然と頼りにされるような子どもでした。小学生の時、特別学級に通う同級生がからかわれているのを見かねて庇い、以来その子を一生懸命いたわる姿を見て、「優しく、強い子だな」と親ながら感心した覚えがあります。中学、高校でも、いつもクラスのまとめ役や盛り上げ役。家庭でも、学校のこと、ガールフレンドのこと、何でもあっけらかんと話してくれる朗らかな性格なので、とりわけ心配することもなく、本人の自主性に任せてきました。

そんな子どもだったから、大学生になってボランティアサークルに入ると聞いた時も、驚きませんでした。海岸の清掃といったエコ活動から、中国での復興支援まで、国境を飛び越えて活動しているようです。今年3月に東日本大震災が発生した時、私は東京出張、妻は茨城県の自宅、長男は仙台とバラバラの場所におり、一時は電話もメールもまったく通じませんでした。その時、京都にいる息子が祖父母を含めた家族一人ひとりに連絡を取り、全員の無事を知らせてくれたんです。その迅速な行動はもとより、家族みんなを思いやる気持ちを持っていてくれたことを頼もしく思いました。

最近、内定祝いに送ったメールに、息子がこんな文面を返信してきました。“お父さん、お母さんがちゃんと育ててくれたおかげ。これからは恩返していけるように尽力します。”誰かに何かをしてあげることにばかり目を向けていた息子だけれど、ボランティア活動やアルバイトなどさまざまな経験を経て、自分自身も誰かに支えられていることに気づいた様子。「成長したな」と思ったのは、その時です。

思い通りにならないことに直面したり、挫折を味わったりするのは、きっとこれからでしょう。これまでそうした経験を味わっていないだけに、心配もありますが、そんな時にこそ陰ながら支えてやれたらと思っています。



子どもの声

大学に進学して一人暮らしを始めた当初は炊事や洗濯にも苦労しました。何にでも挑戦させてくれる両親だったけれど、親元を離れて初めて実は物心ともに支えられていたんだと実感しました。ここまで導いてくれたいろんな人に恩返しをしたいという気持ちが芽生えたのは、そんな経験があったから。だから就職先も、地元の地方銀行に決めました。



壁にぶつかる息子に 自分の体験や失敗を語る

親 → 中野達夫さん

子 → 中野拓真さん(産業社会学部3回生)

case 3

私 自身が体を動かすのが好きで、学生時代は野球やバスケットボールなどさまざまなスポーツに親しみました。息子が生まれてからは、相撲、ラグビー、野球などを一緒に観戦するのが、新たな楽しみになりました。その影響か、息子は小学1年から近所の相撲道場に通い、一方で野球にも打ち込むスポーツ少年に育ちました。一貫して子どもに言い聞かせてきたのは、「一度始めたことは、簡単に投げ出してはいけない」ということ。小学5年生の時、相撲を嫌になった息子が、稽古をすっぽかしたことがあったんです。その時ばかりは、厳しく叱りました。

相撲に対する姿勢が変わり始めたのは、中学2年生の頃からでしょうか。それまで「やらされている」という感じだったのが、稽古にも自分から意欲的に臨むようになりました。それからは、相撲一筋。高校3年生の時、近畿大会の体重別で優勝し全日本ジュニアに出場したことで、自信を持たれました。

相撲選手としては小兵の息子。大学3回生になったまさに今、壁にぶつかっています。強豪相撲部を率いる先輩と、メキメキ実力をつける後輩のはざ間で、団体戦のレギュラーメンバー5名に入るのに苦戦しているようです。そんな子どもの様子に気づくのは、夕食時のリビング。3人の息子が幼い頃から積極的に話をするようにしてきたせいか、今でも家族が自然とリビングに集まり、会話を交わすのが日課です。直接的なアドバイスはあまりしませんが、他愛ない会話の中から教訓を汲み取ってくれればと思い、私自身の体験や若い頃の失敗を笑い話も交えて話すようにしています。

最近、息子が大学の忙しい稽古の合間を縫って、かつて小学1年から中学卒業まで通った相撲道場に足を運び、子どもたちに胸を貸していると知りました。「いろんな人に支えられて、今の自分がある」。そんな風に考えられるようになった息子は、以前よりひと回り大きく見えますね。



子どもの声

ふだんは冗談を言い合ったり、何でも話せる優しい父ですが、物事を中途半端に投げ出すことには厳しかったですね。大学に入り、身体や実力の違いに愕然としました。それでもあきらめず、前向きに取り組めるのは、父の教えがあるから。レギュラーになり、インカレベスト8が目標。もう一つ、将来に向けて公務員になるという新しい目標もできました。



衣笠
キャンパス

実写制作ゼミ [映像学部]

📖 実写制作ゼミ [映像学部] 品田隆教授・深沢伸行教授・林基継教授・山本浩史准教授・藤岡幹嗣准教授・島村漱客員教授

📖 ゼミテーマ：実写映像作品制作および次代の映像業界を担う人材の育成

太秦にある立命館松竹スタジオで開講される実写制作ゼミ。豊富な現場経験を持つ6名の教員による指導のもと、熱意ある学生が集まって作品づくりに打ち込んでいます。

ゼミ紹介

個々の目的意識高く、組織としての結束力強い

私がゼミ長を務める実写制作ゼミは、総勢42名で構成される、映像学部の中でも大所帯のゼミです。

映画、CM、ドキュメンタリーなど様々なジャンルの実写映像作品を制作し、映像表現の確立・技術の向上に励んでいます。3回生は一人1本のショートムービーを監督し、各自が表現の幅を広げ、新たな課題を発見して卒業制作に向けて準備します。4回生はそれまで学んできた映像制作の集大成となる卒業研究に1年を費やし、それぞれのテーマをもとに長編もしくは短編作品を制作します。

実写制作ゼミは、監督・撮影・編集・音響など、映像制作に欠くことの出来ない専門的な知識をプロの現場で活躍する先生方に教え

てもらえることが特徴です。技術の伝授や的確な指導はもちろんのこと、時には人生の先輩として個人的な相談にも乗ってくださいます。また、このゼミは学生が主体で、年間の授業計画や機材・施設管理等は学生が中心となって運営しています。一人ひとりがより良いゼミにするために考え、行動しているため、個々の目的意識は高く、組織としての結束力も強いのです。

制作には多くの人の協力が必要となるためコミュニケーション能力が身につく、社会性を養うことが出来ます。私は、このゼミでの多くの経験から、一人の人間として大きく成長し、同じ志を持つ互いに刺激し合える仲間と出会えたことを、本当に良かったと思っています。



映像学部4回生
福住祥明さん



卒業研究のテーマをプレゼンし、制作協力者を募集



仲間たちの自由な発想に聞き入る



現在も映像の現場で活躍する先生方

Schedule

3回生

前期 ゼミ課題作品制作

後期 卒業研究作品テーマ設定
企画、シナリオ作成

4回生

前期 卒業研究作品制作

後期 卒業研究作品制作



Interview

「観る人を感動させる」作品づくり

『実写制作ゼミ』という名称だけあって、このゼミは実写の映像作品の制作に関わるすべての要素を網羅しています。監督、撮影・照明、編集、音響など、実写映像を作る上での映像と音の構築をそれぞれの分野の専門家である担当教員が連携して指導し、学生の作品制作をサポートします。指針としているのは、ビジネスとして成立する「視聴者側のことを考えた作品づくり」。作り手の自己満足に陥らず、いろんな意味で観る人を感動させることを考えた作品づくりを目指しています。

ゼミ生は、映画やCM、プロモーションビデオ、ドキュメンタリーなど、どのような表現形態で自分が伝えたいテーマを構築するかを考えて作品にしていきます。3回生の前期では、各自15分以内の短編作品を制作。後期は卒業研究のテーマを考え、企画書、そしてシナリオを作成します。4回生ではそのシナリオをもとに撮影、編集し、音響効果をつけて卒業研究作品を完成させます。

制作はチームプレー。ゼミの仲間や外部の方などたくさんの方の協力を得て進めていくのです。スタッフ全員の力で作品を「1+1=2」ではなく「=100」にするには、「one for all, all for one」の、互いを思いやる心が欠かせません。そうして連携してきたゼミ生たちの中には、「グループワーク」という言葉よりもっと強い絆が生まれます。

連携の中でそれぞれがスキルを向上

作品をつくるためには授業以外にも多くの時間を費やすので、はっきり言ってゼミ生の毎日は大変だと思います。けれど、一つのブレない目標に向かって進んでいくので充実した学生生活を送ることが出来る。お互いの意見を闘わせても、向かう先は一つ、「良い作品を作りたい」。スタッフワークを通して「自分はどんな立場で、何が出来るだろう」と作品に対して常に考えて行動するようになり、協調性と自己主張との兼ね合いなど人

Profile

品田 隆 (しなだ・たかし)

映像学部教授

1981年大阪芸術大学芸術学部映像計画学科卒業。(株)電通映画社CM制作部、テレビ局制作部を経て、1988年シナダディレクションオフィス設立。CM、PV、ドキュメンタリー、イベント映像など幅広い分野で作品を手がける。



間関係に必要な術を身につけ、各自がスキルを向上させていきます。外からの評価を受けて成長してほしいので、映画祭コンペティションなどへの出品も奨励していますが、そのようにして制作されたゼミ生の課題作品や卒業研究作品が、学生映画祭などで受賞することも珍しくありません。

実写映像制作を通して「人間性」を育む

制作に取り組む中で、自分のやりたいことを具現化するという作業に慣れているので、卒業後の進路についても目指す方向をはっきりと決めて進んでいる学生が多いと思います。これは、ゼミで養った目的意識が効果として表れている素晴らしい事例だと思います。映像業界に進む割合も高いので、学生時の経験が企業側にも受け入れられているということではないでしょうか。このゼミが目標としているのは「人間育成」ですが、映画を中心とした実写映像に携わるということにおいて、人間性が非常に重要だからです。技術力も大事ですが、まず人として必要なことを身につけてもらいたい。時には厳しく指導することもあります。もともと意欲的な学生が多く、ゼミを終えて卒業する頃には、ほとんどの学生が自分の枠を飛び出して大きく成長してくれています。

Student's Voice

最終目標は卒業制作
それがこのゼミのあり方

映像学部4回生 真野雄平さん



このゼミは基本的に自発性に委ねられているので、やる気があれば制限なく様々な活動ができます。私は授業を企画運営して、そこに使用する映像素材を制作したり、コンテストに作品を出品したりと、仲間と協力して積極的に活動してきました。課題で制作した短編映画を京都国際学生映画祭で上映していただいたり、テレビで放映していただいたりと、貴重な経験もたくさんできました。しかし、私たちの最終目標は卒業制作です。これまでゼミで培った経験、制作を通じた仲間との絆、そのすべてを卒業制作にぶつけようと思っています。それがこのゼミのあり方だと私は思っています。

Student's Voice

自ら動くことで得られる
貴重な経験

映像学部4回生 高木翔史さん



私たちが2期生ということもあり、このゼミは自分たちの手で作り上げながら活動しています。最近では、自動車の安全運転講習を行ないました。作品制作で車両を使用することがあるので、ゼミ生がより安全に活動できるようにと企画したものです。私が外部の教習所に協力をお願いして実現したのですが、学生のうちから社会と関わる貴重な経験が出来ました。制作を通じた先輩たちとの繋がりや、教授からの講義だけでなく、ゼミを運営するため自ら動くことで得られる一般の講義にはない経験は、これからの役に立つと感じています。

編集
後記

「ゼミを通して、人としてあるべき姿勢を何より意識してもらいたい」と、ゼミはいつも必ず声を揃えたあいさつからスタートする。授業はすべて学生が運営。3回生は4回生の卒業制作に自主的に協力し、そこでの「気付き」を自分の制作に生かす。このサイクルが次の学年、そのまた次へと連鎖と受け継がれており、「自学自習」によって学生はスキルアップし続けていくという。

📖 小島ゼミ [生命科学部] 小島一男教授

📖 ゼミテーマ：光触媒や蛍光材料などの光機能性材料の物性調査および作製

現在競争が激化している、光触媒をはじめとした光機能性材料などの作製を専門とする小島ゼミ。幅広い分野に興味を広げながら、それぞれが自分の目標をはっきりと見つめて研究を進めています。

ゼミ紹介

ものづくりと同時に、解析にも力を入れる

ゼミでは光機能性材料を中心に幅広い分野で研究を行ない、それぞれがテーマを持って積極的に取り組んでいます。ガラス・セラミックス、微粒子、薄膜および希土類錯体など主に無機化合物から、緑や赤の蛍光を強く出す材料や、夜光塗料のように長時間光り続ける材料などを創り出します。また、有害物質に光をあてることにより無害化する性質をもつ光触媒や、金属微粒子と高分子のような無機・有機ハイブリッド材料、ポリインという直鎖炭素化合物についても研究を進めています。これらの作製法には主にゾル・ゲル法を使用する一方で、尿素均一沈殿法など別の方法も取り入れています。

ゼミの特徴は、ものづくりと同時に解析に

も力を入れること。各試料について光学スペクトル、磁気共鳴 (ESR、NMR)、X線解析、放射光装置など様々な側面から測定を行ない、材料化学分野への応用・展開を目指しています。

私は、希土類イオンの一種であるテルビウムイオンを含有した、タンタル酸化物母体の蛍光球状粒子について研究しています。豊富な過去の資料を参考にして、生化学分野でよく使われているフリーズドライ法を無機・有機分野で取り入れるなど、新しい経験をたくさん積むことができているように感じています。学会などに参加できる機会も多く、仲間たちの実験報告や文献紹介からも、他分野含め、より深い知識を得ることができます。



生命科学部 4 回生
藤村麻衣さん



パワーポイントを使って文献紹介の発表



異なるテーマの理解も深めようと、仲間の発表に熱心に耳を傾ける



発表に対して、小島教授からは適切な指摘とアドバイスが

Schedule

4 回生

- 前期 研究テーマの決定、練習実験、文献調査、文献紹介と実験結果の報告
- 後期 研究テーマに沿った実験・解析・中間報告、文献調査・紹介、卒業論文作成



Interview

身近な暮らしで活用されるテーマ

このゼミでは、光触媒、蛍光（発光）材料、直線状炭素材料「ポリイン」を大きなテーマとしています。これらを、ゾル、ゲルの状態を経て乾燥、加熱を進めていく「ゾル・ゲル法」という方法で作製し、その各過程における物質の性質をいろんな条件のもとで調べています。

現在、光触媒の基礎研究に力を入れています。光触媒には、光を当てると有害な有機物を分解する機能があり、例えば家を新築する時に壁に光触媒を入れておけば、太陽の光が壁に当たると、建材に使用される人体に有害なホルムアルデヒドを分解します。この機能は、病院施設や浄水場などでも利用されています。ほかにも水が流れやすくなるという特質があり、汚れが付きにくく、勝手にきれいになるという効果から、車のサイドミラーやトンネルのハロゲンランプ、高層ビルの外壁などにも利用されています。

蛍光（発光）材料の新しい研究としては、最近、ゲルマニウムの酸化物にマンガンを入れ、全体を薄い膜にして強い緑色の光を発するものを作ることが出来ました。マンガンを入れなければ光触媒になるという、一つのものから二つになる新しい性質を持つ、まだ他ではあまり見られないものです。

直線状炭素材料「ポリイン」は、黒鉛（グラファイト）やダイヤモンドなどの仲間。実用化はまだ先ですが、真すぐに並ぶ炭素分子の線に沿って電気を流して電線のように利用できるのではと考えられています。このポリインを、私の研究室ではレーザー光を黒鉛に当てる新しい方法で作製しています。

このように身近な暮らしで大いに活用されているテーマだからこそ、各研究機関や企業が日々開発に取り組んでおり、非常に競争が激しい分野と言えます。

新たな結果から、
すでにあるものを上回る対応を短期間に集中して

ゼミでは、3回生の終わりの1月ごろから基礎的な実験をして、4回生

になるまでに卒業研究のテーマを決めます。4回生になると、教員や大学院生たちに教わりながら個別に実験を行ない、卒業研究を進めます。実験を通して新しい結果が出れば、すでに出されている研究結果を上回る対応を短期間に集中して目指します。

授業は学生が進行し、毎回2人が研究結果を発表します。ゼミ生は、ひと言で言うと積極的。自分が発表したいことをきちんとと言える学生が多いですね。自分のテーマと異なると分からないことだらけのはずですが、それにもかかわらず仲間の発表に頑張って質問している。その積極性に加えて基礎学力を固めれば、さらに伸びていくのではないかと思います。

ここまでと決めてしまわず、どこまでも追求して

自分で新しい結果を見つけると、たとえ小さなことでも自信につながります。それは社会に出てからも自分の支えとなるはず。そのためには、今の若い時期に最大限の力を出し、自分でここまでと決めてしまわず、どこまでも追求してほしい。そうして最後まであきらめなかった学生と、そうでない学生との差は、卒業する頃には目に見えて現れるようになります。



Profile

小島一男（こじま・かずお）

生命科学部教授

1977年立命館大学理工学部化学科卒業。1979年京都大学大学院理学研究科化学専攻博士課程中退、同年立命館大学理工学部助手。同学部応用化学科教授などを経て、総合理工学院生命科学部応用化学科教授へ（現職）。理学博士。

Student's Voice

次世代の科学を担う
蛍光材料の改良を目指す

生命科学部 4回生 山内康平 さん



蛍光材料は、光を当てることでエネルギーを蓄え、発光という形でエネルギーを放出することができ、光学デバイスや次世代フラットディスプレイパネルのような次世代の科学を担う材料として、現在期待されています。私の研究目標は、マンガンイオンを発光させて、より長い時間かつ、より強い光を放出する蛍光材料を作製することです。マンガンイオンとユーロピウムイオンが入った酸化亜鉛-酸化ゲルマニウム系試料を作製して、より長くて強い光を示すことのできる試料を作製したいと考えています。

編集
後記

「教員と学生とは堅苦しくない関係でありたい。少なくとも研究テーマに関しては、教師と学生、先輩・後輩の壁がないように」と小島教授。教授の個人研究室は、学生たちが入って来やすいようにいつも扉が開かれており、学生たちが気軽に研究の相談にやって来る。各自が自分のテーマに真剣に向き合っているからこそ、授業中も、先輩・後輩の隔てなく活発に質問が飛び交っている。

Student's Voice

レーザーを使って、今までにない
ハイブリッド材料の作製を

生命科学部 4回生 柴田彩香 さん



最近、レーザーを使った研究が盛んに行なわれています。レーザーを使うと、従来の方法では難しかった新しい化合物の合成も簡単にできるようになります。この研究室ではレーザーを利用して、炭素が一直線に並んだ「ポリイン」というダイヤモンドの親戚を作っています。地球上に存在しないポリインの研究はまだまだ発展途上です。将来的には分子サイズの電線や半導体などへ利用しようと、フラーレンやカーボンナノチューブに並ぶ新しい炭素材料として期待されています。私はこのポリインと液晶を混ぜて、今までにないハイブリッド材料の作製を目指しています。

教職教育課 教職支援センター

衣笠キャンパス

至徳館1階

びわこ・くさつキャンパス

ユニオンスクエア1階

■教職教育課〈衣笠・BKC〉

窓口時間	月～金	10:00～17:00 (昼休み 11:30～12:30)
------	-----	----------------------------------

※休暇期間(夏期・冬期・春期)中は窓口時間が異なります。

■教職支援センター〈衣笠・BKC〉

窓口時間	月～金	9:30～17:30
相談時間	月～金	10:00～17:30

※休暇期間(夏期・冬期・春期)中は窓口時間が異なります。



〈衣笠キャンパス〉



Navigator

瀧 和哉 さん (文学部4回生)

60コマを開講する他、個別相談にも応じてくれます。例えば、わからない問題を教えてくれたり、小論文を添削してくれたら、また面接実技の指導もしてもらえます。私はここに来てただ話を聞いてもらうだけでずいぶん励まされました。とりわけ先生の経験談を聞いたことが良かったな。「こんなことがあってね」などと教育現場のリアルな話を聞くと、モチベーションがグッと高まります。

書架には、各都道府県・市の教員採用試験の過去問題から小、中、高、特別支援学校の問題集、指導要領までがズラリ。試験勉強の資料には事欠きません。

それからマメにチェックしてほしいのが、掲示板です。各都道府県・市の教員採用試験学内説明会案内など、見逃してはならない告知が掲示されています。その他、学校ボランティアや講師の募集案

内なども貼り出されています。私もこの掲示板で見つけて、3回生の時、中学校の学習支援のボランティアを経験しました。その経験を活かし、今は京都市の総合育成支援員として別の中学校に勤務しています。

試験合格だけでなく、教師を志す気持ちも後押ししてくれる。それが教職教育課、教職支援センターなんです。

ここ来れば、
同じ目標に向かう
仲間ができます！



教 師になる道を考え始めたら、すぐココに来ることをお勧めします。まず教職教育課は、教職課程を履修する上で必要なことを教えてくれるところ。カリキュラム、単位の取り方、また教育実習や介護等体験などの手続きについて、相談にのってくれます。

そして教員採用試験に向けた準備を力強くサポートしてくれるのが、教職支援センターです。自習室には、教職経験豊かな講師陣が常駐。教員採用試験に向けた対策講座(8月～翌年4・5月/全



〈衣笠キャンパス〉教職員



〈びわこ・くさつキャンパス〉教職員



大学でもっばらこの自習室で勉強。わからないところを先生や周囲の友達にすぐ聞けるのがいいですね。



先生から受けるアドバイスは説得力バツグン。やる気がメラメラ燃えてきます！



■教職教育課 URL
http://www.ritsumeiji.jp/kyoshoku/index_j.html

■教職支援センター URL
http://www.ritsumeiji.jp/kyoshokushien/index_j.html

国際教育センター

衣笠キャンパス 明学館1階

BKC アクロスウイング1階

開館時間	月～金	10:00～17:00 (昼休み 11:30～12:30)
	水	12:30～17:00
閉講期間中	月～金	13:00～17:00



(衣笠キャンパス)

Navigator

戸川 真由美 さん (国際関係学部 4 回生)



海外留学に興味を持っている学生は多いけれど、留学制度については、知っているようで案外あまり知らないんじゃないかな? すごくたくさんさんの留学プログラムがあること、奨学金などのサポートが整っていること、学内選考や事前準備が必要なこと…。そうした留学に関するあらゆる疑問に答えてくれるのが、国際教育センターです。

衣笠では、ドアを開けてまず目に入るのが、私たち留学アドバイザーが座るブース。留学を経験した学生が、留学先での生活、大学の雰囲気など現

地を知っているからこそできるアドバイスをしてくれます。私は交換留学制度を利用し、アメリカ・ボストンのサフォード大学で1年間学びました。留学の約1年半前から国際教育センターを訪れ、情報収集。留学に必要なTOEFL®のスコアを取るための勉強について、4年間で卒業するための留学プログラム、さらには応募用紙の書き方まで、相談窓口の職員の方には実にさまざまな相談に乗ってもらいました。

また国際交流ラウンジには、世界各国の大学のパンフレットが置かれています。そうそう! お勧めは留学した学生の体験談が載っている「留学の手引き」。ぜひ読んでみてください。

アメリカ留学で印象に残っているのは、ディバーの授業です。人種も価値観も違う学生同士の議論では、予想もしない切り口から意見が飛び出し、

とても新鮮でした。帰国後、自分の意見をはっきり言えることに気づいた時、留学での成長を実感しました。留学アドバイザーとして、次は皆さんの成長を応援します!



私たち
学生アドバイザーが、
経験者だから
知っているコト、
教えます!



(衣笠キャンパス) 教職員



(びわこ・くさつキャンパス) 教職員



BKCの国際交流ラウンジ

留学アドバイザーには、世界各国、すべての留学プログラムの経験者が揃っています。また国際交流イベントなども開催しているので、ぜひ訪れてみてください。

世界各国の大学のパンフレットが揃っています。まずはどんな国に行きたいか、考えてみて。

■国際教育センター URL
http://www.ritsumeiji.jp/cger/index_j.html

2011

父母教育後援会総会

春のオープンカレッジの前日にあたる5月21日(土)、「2011年度立命館大学父母教育後援会総会」がグランドプリンスホテル京都で開催されました。大学選出役員、父母委員合わせて127名が出席。

昨年度の事業・決算報告と、本年度の選出役員や事業計画・予算案が報告され、承認を得ました。

また総会前には、「2011年度地域ブロック懇談会」が実施されました。



■ 地域ブロック懇談会



総会前に「2011年度地域ブロック懇談会」を実施しました。地域ブロック懇談会は、全国47都道府県の父母委員と事務局(社会連携部)が意見交換を行う場として2010年度から実施しています。

今年度は、95名の父母委員と幹事長をはじめとする大学教職員10名が参加。A～E(右記グループ参照)の5つのグループに分かれて、「父母ネットワークの構築と大学との連携について考える」をテーマに意見交換を行いました。各グループの進行を常任委員が担当。同じ父母という立場から共感し

あうことも多く、各グループとも、活発に意見交換がされていました。

約1時間、グループごとに意見交換を行ったあと、各グループで出された意見が報告されました。学生の健康管理や食生活などの日常生活に関する事項や留学や課外活動、授業やゼミナールなど大学での学び、そして就職活動に対する心配が各グループの意見として挙げられました。特に大学から離れた地域に住む父母の方は、お子様の日常が見えないことから心配は尽きないようです。また、東日本大震災の経験をとおして、安否確認システムや大学の危機管理体制について多くの要望が出されました。

続いて石井幹事長が各グループの意見・要望に対する回答として、すでに大学が行っている支援プログラムや支援体制、大学の方針について説明されたあと、「本日いただいた意見は父母の意見として大学に返して

いきたい。また、父母教育後援会でも今回いただいた意見を後援会事業に反映できるよう常任委員会の中で引き続き検討していきたい。」と述べられました。最後に、全父母委員が集まる場で、学生・大学のためにたくさんの貴重な意見をいただいたことに対し改めて感謝の意を表し、地域ブロック懇談会は終了しました。

■ グループ

- Aグループ
(北海道、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、茨城、栃木)
- Bグループ
(千葉、埼玉、東京、神奈川、山梨、群馬、長野、新潟)
- Cグループ
(富山、石川、福井、岐阜、静岡、愛知、三重、和歌山)
- Dグループ
(鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、徳島、高知、愛媛)
- Eグループ
(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)

■ 総会

地域ブロック懇談会終了後、2011年度父母教育後援会総会が行われました。冒頭に父母教育後援会名誉会長を務める川口清史立命館総長・立命館大学長が登壇。はじめに東日本大震災の被害にあわれた皆さまに対してお見舞いの言葉と、「立命館大学は被災した本学学生を対象として学費減免措置など、できる限りのサポートをさせていただきたいと考えています。」と述べられました。つづいて学園の現状を報告するとともに、学生・学園を支えてくださる父母の皆さ

まへ深い感謝の意を表しました。

大学選出役員紹介後、議案書に沿って各議題が報告されました。公務のために欠席された千宗室父母教育後援会会長に代わって、2011年度副会長候補の太田勝之委員が議事進行を行いました。父母教育後援会幹事長の石井秀則教学部長が2010年度の事業、決算報告、今年度の事業計画と予算案について報告されました。学生教育支援事業および特別事業について質問が出されましたが、石井幹事長が即した説明を行い、その後、

拍手をもってすべての議題の承認を得ました。最後に2011年度常任委員の紹介が行われ総会が終了しました。



2011年度 父母教育後援会役員一覧

(敬称略)

役職	都道府県	新任	氏名	役職	都道府県	新任	氏名	役職	都道府県	新任	氏名	
会長	京都府		千 宗室	委員	東京都	○	宮坂 初恵	委員	岡山県		赤木 周一	
副会長	兵庫県		太田 勝之		神奈川県		永井 勇		岡山県	○	横田 正佳	
監事	大阪府		日浦 良夫		神奈川県	○	長島 雅典		広島県	○	沖本千恵子	
	京都府		馬場 慶子				近藤 肇				内海奈美江	
常任委員	大阪府	○	水野 治		山梨県		望月 雅樹		山口県	○	未永 睦	
		○	藤木 猛			○	奥田日出美				江藤 龍夫	
	滋賀県		小林 浩子		栃木県		中里 光江		香川県		松下 俊一	
			高橋 和雄				横松 盛人			○	有塚 守	
	京都府		石原 純子		群馬県		岩井 泉		徳島県		西野 陽一	
			野村 一雄			○	岩田由香里				逢坂 伸司	
		○	林 妃呂子		長野県		勝野 恒彦		高知県	○	山本 祐子	
	奈良県		面田 裕紀			○	忠地 仁誠			○	和田 己歌	
		○	岩橋 直子		新潟県	○	盛田 実		愛媛県	○	大野 千景	
	兵庫県		水野 敏行			○	帆苅 隆				寺谷 瑞枝	
委員	北海道		長江 千恵		富山県		上田 晋介		委員	福岡県		石津 博睦
		○	水原みゆき			○	中田 達也				○	岩見 徹
	青森県		村上真理子		石川県		喜多 仁嗣			佐賀県		天本 豊
			福士 雅巳				半座磨利子					諸岡 讓
	岩手県		佐々木 稔		福井県	○	西浦 陽子			長崎県		木下健一郎
			平井 孝典			○	杉田 尊				○	原口 俊彦
	秋田県		幸坂 金光	岐阜県		松田 慶子	熊本県	○		徳田 明人		
			根田 明樹			中野 浩之				坂本 省一		
	山形県		伊藤 顕治	静岡県		寺尾 立	大分県			賀未慎一郎		
			横山 敏子		○	飯坂 哲也		○		古長 妙子		
	宮城県	○	阿部 志保	愛知県	○	坂井 康晃	宮崎県			湯浅まき子		
			小山 順子			隅田 洋一		○		工藤 浩		
	福島県		小林美紀子	三重県		小村 寿郎	鹿児島県			瀨田 時久		
		○	山越 弘吉		○	野呂 文彦		○		鮎川 正昭		
	茨城県	○	西崎 武	和歌山県		辻 美和	沖縄県	○		上間 久造		
			深谷 正史		○	服部 眞悟		○		仲本 良子		
	千葉県		黒川 忍	鳥取県		赤坂 葉子						
			中牟田満子		○	北村 明						
埼玉県		沼田 好晴	島根県		原 宏							
		三ヶ島佐恵子		○	原田 明成							

2011年度 大学選出役員

(敬称略)

役職	学園役職	新任	氏名	役職	学園役職	新任	氏名
名誉会長	総長・学長		川口 清史	顧問	生命科学部長	○	今中 忠行
副会長	副総長・副学長	○	見上 崇洋		薬学部長	○	今村 信孝
	副総長・副学長		飯田 健夫		スポーツ健康科学部長		田畑 泉
顧問	理事長		長田 豊臣	幹事長	教学部長		石井 秀則
	教学担当常務理事		中村 正	幹事	教学部副部長		池田 伸
	学生担当常務理事		國廣 敏文		学生部副部長		白石 晴樹
	総務担当常務理事		森島 朋三		キャリアセンター副部長	○	花崎 知則
	法学部長		二宮 周平		図書館副館長		高倉 秀行
	経済学部長		松原 豊彦		国際部副部長		中川 優子
	経営学部長	○	中西 一正		教学部次長(衣笠担当)	○	石坂 和幸
	産業社会学部長	○	有賀 郁敏		教学部次長(BKC担当)		徳永 寿老
	国際関係学部長		板木 雅彦		学生部次長		北田 正知
	政策科学部長		本田 豊		キャリアセンター次長		浅野 昭人
	映像学部長		大森 康宏		図書館次長		武山 精志
	文学部長		桂島 宣弘		国際部次長	○	近清 雅彦
	理工学部長		坂根 政男		社会連携部長		縄本 敏
	情報理工学部長		大久保英嗣				

2010年度 決算

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額
経常収入	360,595,000	360,413,585
会費収入	360,000,000	359,920,000
過年度会費収入	0	0
卒業生父母資料費収入	280,000	78,000
預金利息収入	80,000	40,832
基金積立金利息収入	60,000	17,956
有価証券利息収入	175,000	175,000
雑収入	0	181,797
前年度繰越金	91,058,905	91,058,905
収入の部 合計(A)	451,653,905	451,472,490

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額
I. 事業費支出	357,420,000	310,247,597
1. 懇談会開催事業支出	108,375,000	101,855,730
2. 学生教育支援事業支出	195,800,000	161,810,424
3. 会報・学園案内広報事業支出	23,645,000	21,475,034
4. その他事業支出	29,600,000	25,106,409
II. 管理費支出	39,700,000	33,362,464
III. 予備費支出	35,000,000	0
IV. 父母教育後援会基金積立金繰入支出	0	0
当期支出合計(I+II+III+IV)(B)	432,120,000	343,610,061
次年度繰越金(A)-(B)	19,533,905	107,862,429

2010年度 事業報告

(1) 懇談会事業

- 1 総会**
6月5日(土) グランドプリンスホテル京都にて開催。全国47都道府県から96名の父母委員と、総長以下大学選出役職者29名が参加した。
- 2 春のオープンカレッジ**
6月6日(日) 本学での開催が初となるホームカミングデーと同日に衣笠・BKCの両キャンパスにて開催。「学生生活講演会」、「進路・就職講演会」、「留学説明会」、「スキルアップ説明会」、「就職相談会」、「大学院進学説明会」等のテーマ別懇談会を実施。両キャンパス合わせての参加者数は計3,072名(前年度2,361名、前年比130%)となった。
- 3 都道府県父母教育懇談会**
5月30日(日)～7月19日(月・祝) 全国47都道府県49会場で開催。全会場合わせての参加者数は計6,054名(昨年度5,663名、前年度比107%)となった。全体会では、進路・就職状況の説明に重点をおいた。その他、履修・学生生活についての説明や就職活動体験報告、グループ別懇談会を実施。

- 4 秋のオープンカレッジ・委員懇談会**
11月20日(土) 秋のオープンカレッジ開始前の12時より、両キャンパスにおいて委員懇談会を開催。全国47都道府県から87名の父母委員と総長以下大学選出役員29名、オブザーバー2名が参加した。秋のオープンカレッジは、1部に「学生生活講演会」、「進路・就職講演会」、「アカデミック講演会」を、2部に「学部別懇談会」を実施。両キャンパス合わせて1,589名(前年度2,168名、前年比73%)が参加した。
- 5 アカデミック京都ウォッチング**
11月21日(日) 京都歴史回廊協議会特選コース2コース、本学教員と京都の歴史・文化・街を訪ねるコース7コース、学生ガイドと巡るコース6コースの計15コースで実施し、640名が参加した。

(2) 学生教育支援事業

- 1 正課等教育支援**
①サブゼミアワー活動支援事業: クラス・ゼミ等学部小集団の合宿やフィールドワークに対する支援。
②表彰制度支援事業: 各学部において正課等で顕著な成果をあげた学生791名を表彰。
③入学式典開催支援事業: 入学式における学生の運営活動に対する支援。
- 2 課外活動支援**
①文化・スポーツ応援事業: 試合観戦チケットの配布や、応援グッズの作成、全国大会等へ応援バスの運行、学園祭等の全学行事に対する支援。
②シャトルバス支援事業: BKC-衣笠キャンパス間のシャトルバスの乗車料を補助。
- 3 進路就職支援**
①就職活動支援事業: キャリアフォーラムの実施、SPI模擬試験受験料補助、PLACEMENT GUIDEの作成、父母キャリアデザインブックの作成、スチューデント・ネットワークの構築に支援した。
②資格試験等図書支援事業: 進路・就職関係および資格取得関連図書、低回生からの社会観・労働観を涵養する図書、一般教養や読む力を育成する図書の購入に支援した。

- 4 国際交流支援**
①留学生支援事業: 留学生の国民健康保険料の補助において、211名から申請があり支援した。
②国際交流支援事業: 国際交流バスツアーや異文化フェスティバル等、日本人学生と留学生との交流事業や、留学アドバイザーによる留学支援事業に支援した。
- 5 奨学金支援**
①修学援助奨学金支援: 学費負担者の死亡により修学を継続することが困難な者への援助において、年間40名の出願があり、有資格者40名全員を採用した。
②家計急変奨学金支援: 学費負担者の病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学を継続することが困難な者への援助において、年間180名の出願があり、有資格者76名を採用した。

(3) 広報・通信事業

- 1 父母教育後援会だより(会報)の発行**
父母教育後援会だより「夏号」を2010年8月に「冬号」を2011年2月にそれぞれ33,000部発行した。読者アンケートの返送数は、夏号が1,272通、冬号が1,424通と前年比約300%となった。
- 2 ホームページの管理・運営**
「入会のしおり」や懇談会等の年間スケジュールをいつでも見ることができるよう新たにコンテンツを作成し掲載した。また、大学や学生生活におけるタイムリーな話題の提供や進路・就職等、父母の関心の高い情報を見やすく表示するなどホームページの充実をはかった。

- 3 立命館大学父母教育後援会「入会のしおり」の配付**
父母会員全員に送付し、父母教育後援会の概要、年間を通しての事業、各種問い合わせ先等を紹介した。
- 4 キャンパスカレンダーの配付**
父母教育後援会作成の「キャンパスカレンダー」を父母会員全員に送付した。このカレンダーには、学年暦や学校行事、各窓口の連絡先や窓口時間など立命館大学の基本情報を掲載し、父母との共有をはかった。

(4) 特別事業

- 1 立命館大学が主催する2010年度ホームカミングデーへの共催**
学園創始140周年、学園創立110周年、APU創立10周年となる記念の年に、ホームカミングデーを父母教育後援会が主催する「春のオープンカレッジ」と同日に開催。当日は、両キャンパスに父母(3,072名)を含む、学生・校友・地域の方、約13,000名が参加した。

- 2 父母委員地域ブロック懇談会の施行的実施**
父母教育後援会として更なる事業の充実を図るために、各地域の会員の意見をスムーズに吸い上げる仕組みが必要であるとの考えから、「父母委員地域ブロック懇談会」を試行的に実施した。

(5) その他

- 1 成績表の送付**
5月に2～4回生、10月に1回生にそれぞれ成績表を送付した。
- 2 入学記念品の作成・贈呈**
入学記念品として、「キャンパスカレンダー」を作成し、新入生全員に贈呈した。

- 3 卒業記念品の作成・贈呈**
卒業記念品として、アクアUSBハブ(パソコン周辺機器)を作成し、卒業生全員に贈呈した。

2011年度 予算

収入の部

(単位:円)

項目	11年予算額	説明
経常収入	360,290,000	
会費収入	360,000,000	(年会費@10,000円、入会金@5,000円)
過年度会費収入	0	
卒業生父母資料費収入	250,000	卒業生父母の会(年会費@2,000円)
預金利息収入	40,000	
基金積立金利息収入	—	
有価証券利息収入	—	
雑収入	0	
前年度繰越金	107,862,429	
収入の部 合計(A)	468,152,429	

支出の部

(単位:円)

項目	10年度決算額	11年予算額
I. 事業費支出	310,247,597	376,560,000
1. 懇談会開催事業支出	101,855,730	98,050,000
2. 学生教育支援事業支出	161,810,424	186,410,000
3. 会報・学園案内広報事業支出	21,475,034	27,700,000
4. その他事業支出	25,106,409	64,400,000
II. 管理費支出	33,362,464	38,700,000
III. 予備費支出	0	35,000,000
IV. 父母教育後援会基金積立金繰入支出	0	0
当期支出合計(I+II+III+IV)(B)	343,610,061	450,260,000
次年度繰越金(A)-(B)	107,862,429	17,892,429

2011年度 事業計画

(1) 懇談会事業

- 1 総会**
5月21日(土) グランドプリンスホテル京都
対象: 父母教育後援会委員・役員
- 2 春のオープンカレッジ**
5月22日(日) 衣笠・BKC両キャンパスで開催
概要: 低回生向け企画の充実をはかる。また進路・就職企画では1~3回生向けの講演会と、4回生向けの個別相談会を実施。あわせて、キャンパスツアー企画や、アカデミック講演会を実施する。
対象: 父母教育後援会会員
- 3 都道府県父母教育懇談会**
5月29日(日)~7月17日(日)
44都道府県46会場で開催 ※岩手県、福島県、宮城県は、7月下旬に大学と共催する。
概要: 全体会・グループ別懇談会を実施
対象: 父母教育後援会会員

- 4 秋のオープンカレッジ・委員懇談会**
11月19日(土) 衣笠・BKC両キャンパスで開催
概要: 各学部別に懇談会を実施する。
対象: 父母教育後援会会員
秋のオープンカレッジ開始前に父母委員と大学選出役職者として委員懇談会を開催する。
- 5 アカデミック京都ウォッチング**
11月20日(日)
対象: 父母教育後援会会員・卒業生父母の会会員

(2) 学生教育支援事業

- 1 正課等教育支援**
①新入生教育支援事業: 初年次の小集団教育科目となる基礎演習を単位とするクラス活動に対する補助
②表彰制度支援事業: 主として正課に関わる分野において、優れた成果をおさめた取組を対象とした表彰制度
- 2 課外活動支援**
①全学文化・スポーツ応援活動援助(応援バス・応援団派遣等)
②応援グッズ作成援助(メガホン・チアスティック・横断幕・応援ポスター等)
③学園祭企画援助
- 3 進路就職支援**
①キャリアフォーラムの開催
②SPI模擬試験受験料補助
③PLACEMENT GUIDEの作成
④父母キャリアデザインブックの作成

- ⑤スチューデント・ネットワークの構築
- ⑥3回生・および4回生以上対象ダイレクトメールの作成および発送
- ⑦4回生以上対象求人開拓、模擬面接の実施および父母との連携
- ⑧資格試験等図書支援事業
- 4 国際交流支援**
①留学生支援事業: 国民健康保険料補助
②国際交流支援事業: 留学に関する情報提供と留学支援強化
- 5 奨学金支援**
①修学援助奨学金支援事業: 学費負担者の死亡により修学を継続することが困難な者に対する奨学金制度
②家計急変奨学金支援事業: 家計支持者の病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学を継続することが困難な者に対する奨学金制度
③留学生奨学金支援事業: 外国人留学生の学修の奨励に役立てることを目的とした奨学金制度

(3) 広報・通信事業

広報・通信事業は、会報紙面の内容の充実、ホームページコンテンツの充実をはかる。

- 1 父母教育後援会だより(会報)の発行(年2回)**
- 2 ホームページの充実**

- 3 立命館大学父母教育後援会「入会のしおり」の配付**
- 4 キャンパスカレンダーの配付**

(4) 特別事業

- 1 「アカデミック講演会」の地方開催**
秋のオープンカレッジで開催している「アカデミック講演会」を、各地方ブロックで開催する。
①九州・沖縄ブロック 「アカデミック講演会 in FUKUOKA」
[日 時] 2012年1月21日(土) 13:00~16:00(予定)
[場 所] 福岡 天神イムズ9F イムズホール
[主 催] 父母教育後援会会員
②関東・甲信越ブロック 「アカデミック講演会 in TOKYO」
[日 時] 2012年1月22日(日) 13:00~16:00(予定)
[場 所] 東京 サピアタワー5F サピアホール
[主 催] 父母教育後援会会員

- 2 2015年新キャンパス開設(予定)に伴うキャンパス整備支援**
2015年度の新キャンパス開設(予定)にともなう3キャンパス(衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、茨木新キャンパス(仮称))の展開・整備事業への支援として2011年度から2015年度までの5年間で総額1億円を学園に対して寄付する(年間2,000万円ずつの寄付)。
- 2 東日本大震災による父母・学生被災者への支援**
東日本大震災において被害にあった父母・学生に対して支援をおこなう。
①「災害見舞金制度」として2,500万円の予算化をおこない支援をおこなう。
②「家計急変奨学金」は、すでに6,000万円の予算で運用しているが、この6,000万円を超えた場合に限り、「災害時基金」から5,000万円を上限に供出し、支援をおこなう。

大 都道府県 父母教育 懇談会 阪 府 (理系)

5月29日(日)、大阪国際会議場で、大阪府の父母教育懇談会が開催されました。降りしきる雨にもかかわらず、文社系・理系あわせて370名ものご父母が出席。関心の高さがうかがわれる懇談会となりました。

全体会

日浦良夫大阪府父母委員が司会を務め始まった全体会では、最初に学生団体の立命館大学放送局(RBC)が制作したVTRを上映。画面を通して、川口清史立命館総長・立命館大学長がメッセージを述べました。東日本大震災で被災された学生とご家族に心からのお見舞いを表明するとともに、被災した学生に対して学費減免などのサポートを行う意向を明かしました。また「本学は、私立総合大学として多様な人材を輩出する責務を負っています。国際化にも対応し、今後4,000名の留学生を受け入れていく計画です」と、キャンパスの国際化にも尽力することが語られました。

大学代表あいさつ

まず石井秀則教学部長が、大学を代表してあいさつに立ちました。「都道府県父母教育懇談会は、ご父母の皆さまと大学が密に連絡を取り、情報を共有



するとともに、ご父母同士に交流を深めていただく場でもあります。昨年は、全国で6,000名を越えるご父母にご参加いただきました。その数の分だけ、責務の大きさ

を実感しています」と、都道府県父母教育懇談会の意義を説明しました。また多岐にわたるご父母の支援について、謝意を表明。「とりわけ父母教育後援会の表彰制度は、学生にとって、懸命に学ぶ上での励みになっています。昨年は791名が表彰を受けました」と、語りました。また国際化が進む社会を概観しながら、多様な学生が集う総合大学の強みを紹介。「価値観の違いを越えて協力する中で、学生は大きく成長します」として、今後も教育の質の向上に努力していく旨を述べました。

総会・オープンカレッジ報告

水野 治大阪府父母委員から、去る5月21日に催された父母教育後援会総会、翌22日の春のオープ

ンカレッジについて報告されました。総会では、2010年度の事業と決算が報告されるとともに、2011年度の事業計画と予算案が承認されました。またご父母からの大きな関心とご支持に応じて、秋のオープンカレッジのプログラムの一つに組み込まれているアカデミック講演会を各地域でも開催していくことが表明され、第1回目は、2012年1月に福岡と東京で開催することが報告されました。



履修・学生生活について

庄司佳弘スポーツ強化オフィス職員より、学生生活や履修について解説されました。留学、教職課程の履修については、早期からの情報収集・計画、確固とした志望動機の確立が重要だと語られました。その他、全国的にも高度な教育・研究水準を誇る



る大学院や奨学金制度、保健センターや学生サポートルームといった学生生活を支える機関についても紹介されました。

グループ別懇談会

全体会の後には、グループ別懇談会が催されました。理系学部については、理工学部、情報理工学部、および生命科学部・薬学部の3つに分かれて開催。開設4年目となる生命科学・薬学部の懇談会では、学び方や専門分野について質問が寄せられた他、全学部を通じて進路・就職に関する質問が相次ぎ、ご父母の心配がうかがわれました。互いに自己紹介をし合うなど、ご父母同士、また大学とご父母が親交を深める良い機会となりました。





就職状況報告

続いて佐藤智之BKCキャリアオフィス課長が、VTRも交えながら、2010年度から2011年度にかけての就職状況について報告しました。2010年度の大卒求人倍率は1.28倍、2011年度は1.23倍となり大きな落ち込みはなかったものの、各企業の「厳選採用」は、さらに強まる傾向が見られました。また採用広報の早期化、大手企業の選考時期の集中によって、大手・著名企業を志望する学生には、厳しい就職戦線となりました。特筆すべきこととして、2010年度は「グローバル採用元年」だったと解説。「日本企業の外国人留学生への注目が高まりました。本学にも外国人留学生についての企業からの問い合わせが増えていきます」と、就職活動において国際化が進む現状が述べられました。このような中において、立命館大学の学生の就職決定率は91.7%と、他大学と比べても極めて高い結果だったことが伝えられました。

また、「2011年度については、東日本大震災の影響が採用活動にも及んでいます。東日本を中心に大手企業が選考時期を後ろにずらしたため、採用活動が



長期化することが見込まれています」と状況を説明。「とはいえ、採用数そのものは昨年と比べて減っているわけではありません」として、高まるご

父母の不安を払しょくしました。また、民間企業以外に、公務員試験の動向についても言及されました。採用数の減少にもかかわらず、受験者数は増えていることから、年々、公務員試験の倍率が高まっています。さらに2012年度からは国家公務員試験制度が変更されることも紹介されました。

こうした雇用情勢のもと、「あきらめず、粘り強く長期にわたって活動を続けること」が重要であると、就職活動の心得が強調されました。

「是非認識して欲しいのは、就職活動が『団体戦』だということ。一人で活動しては、情報収集も十分にはできません。企業の追加募集や例年とは異なる採用期間の告知といった最新情報を迅速、かつ的確にとらえるためにも、キャリアセンターを訪れてください。その他、就職内定者や卒業生にまで広がるステューデントネットワークも活用してほしい」と述べられるとともに、情報収集の一助として本学の就職サイト「キャンパスウェブ」への登録が勧められました。

また、震災の影響により、今年導入されたOB・OGが就職支援を紹介するVTRでは、昨年度の就職活動を振り返る姿が放映されました。「面接では、研究活動など自分の学びを伝えること、先を見すえて準備を万全に整えること」といった就職活動のポイントの他、「当初、海外展開している企業への就職を希望していましたが、ことごとく不採用に。その時、改めて志望動機を見つめ直し、自分の本当にしたいことを見つけることができた」と、苦労話も語られ、就職活動のリアルな実態が紹介されました。



Social gathering
in
Osaka



■お集まりいただきました父母の方々の声

Parents' Voice

すま
須^{すま}廣^{ひろ}さんご夫妻
情報理工学部1回生



息子が海外に関心を持っている様子なので、立命館大学のグローバル人材の育成について知りたくて、出席しました。留学プログラムの充実ぶりが聞けたことはもちろん、何より「日本の技術力は世界にも通じる」との力強い言葉をうかがい、励まされました。息子には学業だけでなく、仲間同士のつき合いなど学生生活を充実させ、豊かな心を育ててほしいと願っています。

Parents' Voice

びろう
批^{びろう}榔^{ろう}さんご夫妻
情報理工学部2回生



来年3回生を迎えるにあたり、進路・就職にはどのような道があるのか、とりわけ大学院進学の必要性について聞けたらと思い、足を運びました。インターンシップや留学などのプログラムの他、さまざまな進路の選択肢があると知り、大いに参考になりました。子どもが進むべき道に悩んだ時、アドバイスするための予備知識を得ることができたと思います。



全体会

赤木周一岡山県父母委員の進行で、全体会がスタート。冒頭、学生団体の立命館大学放送局(RBC)が制作したVTRが放映されました。VTRを通してあいさつした川口清史立命館総長・立命館大学長が、東日本大震災で被災した学生に対し、学費減免などのサポートを行うことを表明。「グローバルに活躍できる人材、自らの手で未来を切り拓いていける、たくましい人材を育てたい」と、抱負を述べました。また学生が生活する様子を映した場面や「お金が足りません!」といった学生のコメントには、親元を離れて生活する自身の子どもと重ね合わせたご父母から、あたたかな笑いが漏れました。

大学代表あいさつ

最初に中西一正経営学部長が登壇。大学を代表して、ご父母の多大なる支援に感謝の意を表しました。とりわけ表彰制度や奨学金制度といった教育支援事業が、学生にとって大きな励みになっていることが伝えられました。続いて都道府県懇談会の役割を解説。「遠方にお住まいのために京都と滋賀で行われるオープンカレッジに訪れることが難しいご父母の方々に大学の情報を伝えるとともに、私たち大学にとってもご父母の生の声をうかがうことのできる貴重な機会です」とし、ご父母の方々との密接なつながりを重視していることが語られました。また東日本大震災によって大きな被害をこうむった学生が、学園全体で約50名いることを報告。学生を経済的に支援するなど、学園を挙げてサポートに努めていく決意が述べられました。



在、岡山県校友会には、約4,000名の校友が名前を連ね、岡山県を代表する企業で数多くの校友が働いていることも紹介。「各世代の校

友と交流を深め、情報交換しています。ぜひ学生さんにも今後加入していただき、校友の輪を広げていきたい」と述べられました。

総会・オープンカレッジ報告

横田正佳岡山県父母委員から、5月21日に開催された父母教育後援会総会、22日の春のオープンカレッジについて報告されました。総会では、2010年度の事業と決算、2011年度の事業計画と予算案について議論の末、承認されたことが伝えられました。また秋のオープンカレッジで催しているアカデミック講演会を各地域でも開催していくことが表明され、第1回目は、2012年1月に福岡と東京で開催することが報告されました。

履修・学生生活説明

中上品代社会連携課長から、履修・学生生活について説明されました。留学や教職課程、大学院進学などさまざまなプログラムの他、奨学金制度などのサポート体制の充実ぶりも解説。また保健センターや学生サポートルームなど心身について相談できる窓口も紹介されました。

来賓ごあいさつ

続いて、七宮隆岡山県校友会副会長から、岡山県校友会の紹介とともに、後輩である現役学生への励ましの言葉が贈られました。「立命館大学の学生は、元来情熱と行動力を兼ね備えています。こうした気質は、企業が求める人材像とも一致します。厳しい就職状況でも自信を持って臨めば、必ず自分にピッタリの進路が見つかるはずですよ」とエール。現

グループ別懇談会

全体会の後は、1、2回生、および3回生以上のご父母に分かれてグループ別懇談会が実施されました。一人暮らしを心配する声から、就職状況、地元へのUターンについてなど、ご父母から次々に質問が出されました。それらに対する教職員からの説明に熱心に聞き入るとともに、親元を離れて暮らす子どもを気遣うご父母同士が情報を交換し、親睦を深める貴重な時間となりました。



6月4日(土)、岡山県で父母教育懇談会が開催されました。桃太郎の伝承で名高い吉備国(きびのくに)にちなんで、JR岡山駅前を出迎えてくれるのは、桃太郎の銅像。その駅にほど近い岡山アークホテルに、多くのご父母が集まりました。



就職状況報告

冒頭、工藤祐一キャリアオフィス職員より、今年
は震災の影響で、大企業等の採用時期が数ヶ月後
倒しとなったことにより、例年実施している内定
獲得学生による「就職体験談」をおこなうことが
できないため、卒業生がVTRで就職活動を紹介す
ることになったとの報告がありました。

その上で2010年度の進路・就職結果、および
2011年度就職状況、2012年度に向けた動向が説
明されました。

「2010年度の新卒求人倍率は前年度に比べて大
きな変化はなかったものの、厳選採用やグローバル
人材の採用が顕著でした。今後、国籍に関係なく採
用する傾向はますます強まっていくでしょう」と、
解説。2010年度就職決定率は、91.7%と高水準を
維持した他、国家公務員試験や司法試験といった
難関試験の合格者についても、全国トップクラスの

実績を残したことが
示されました。

「2011年度の民間企業の選考は、東日本大震災の影響によって長期化する
ことに加え、厳選採用が強まる傾向にあります」と、今年度の見通しを説明。「企業
が学生に求めるのは、基礎学力や主体性、積極性、そして何より『高い志』です。これらは正課の授業、
課外活動などに一生懸命取り組むことで育まれます」と、学生生活を充実させることが、希望の進路
をつかむことに結びつくと語られました。



Social
gathering
in
Okayama



岡山県校友会が後輩学生の就職を応援！

岡山県校友会では、卒業生同士が世代を越えて結びつきを強め、公
私にわたって支え合っています。岡山県を代表する企業でも数多く
の校友が活躍しています。この日、地元・岡山県での就職を希望す
る学生の就職活動を応援しようと、懇談会に合わせて就職相談会を
催しました。1973年から2007年までの卒業生7名が集結。地元
就職に関する相談に乗ったり、就職が決まった学生のご父母と歓談
する中で、貴重な情報を提供しました。立命館大学の卒業生として
の誇りを持ち、あたたかくも力強く後輩をサポートする校友の存在
が、ご父母に大きな安心感を与えたようでした。



■お集まりいただきました父母の方々の声

Parents' Voice

木元さんご夫妻
経済学部 3回生



息子は今年いよいよ就職活動が始まります。離れて
生活しているため、きちんと準備しているのか、どんな支
援が必要か、心配は尽きません。少しでも情報収集した
いと思い、参加しました。たくさんの学生が学ぶ総合大
学で、もまれながら成長してほしい。公務員講座を受講
し始めるなど、少しずつ自主性も芽生えてきたようなの
で、今は息子を信じて見守っています。

Parents' Voice

森さんご夫妻
経営学部 2回生



娘は今、BKCの近くで一人暮らしをしています。2歳
上の姉が親元を離れたので、できれば娘には地元で就
職してくれたらと願っています。今日は就職活動への臨
み方など参考になるお話を聞くことができました。現在娘
は、アルバイトやサークル、ゼミとさまざまなことに頑張
っている様子。本を読むなど、大学時代にしかできないこ
とに取り組んで自分を磨いてほしいですね。



Parents' Voices

春のオープンカレッジに参加された
父母の皆さまにお伺いしました

衣笠

3回生になった息子が「大学院で学びたい」と言い出し、参考になればと参加しました。大学院生の話を聞いて、モチベーションや意識の高さが大切と実感。息子にも伝えたいと思います。実家の愛知県を離れ、一人暮らしをする息子とは、ひんぱんに話すことはできません。こうした機会にゆっくりと話をしたいですね。子どもがやりがいを持てるなら、どんな道も信じて応援してやるつもり。立命館大学は、大学院生の就職支援も手厚いとのことなので、それにも期待を寄せています。



渡辺さん ご夫妻
政策科学部3回生の父母

衣笠

息子は今年、文学部に入学したばかり。厳しい就職情勢などを聞くにつけ、これからどんな将来を切り拓いていくのか、親としても心配です。今日は「スキルアップ説明会」に参加し、早期から準備することが大切だと知りました。試しに公務員講座の受講を勧めたいですね。一方で、正課の勉強もしっかり頑張ってもらいたいです。息子はフィールドワークに興味を持っている様子。さまざまなことに挑戦し、将来の選択肢を広げてくれたらと願っています。



香西さん ご夫妻
文学部1回生の父母

衣笠

今年就職活動を始める3回生の息子がいるので、最近の就職活動状況について少しでも把握できればと思い、進路・就職講演会に参加しました。講演会で企業の求める人材について詳しく聞けたのが、良かったです。就職活動のためだけでなく、何事にも一生懸命に取り組むことが人生の糧になるというお話が印象に残りました。サークルやアルバイトで毎日遅く帰宅する息子を、これからもしっかり支えていきたいと思っています。



中島さん ご夫妻
政策学部3回生の父母

衣笠

まだ入学したばかりの息子が、これから立命館大学で学ぶべきことや、将来的なことも知りたくて、兵庫県から参加しました。正課の授業のほか、課外の授業にも想像以上に力を入れていただいていることを知り、その充実ぶりに驚きました。息子自身も短期間ながら自分の成長を実感しているようです。特にスキルアップ説明会でお話を聞いて、留学をさせてみたいと感じました。息子には社会に出る前に色々な文化に触れてほしいですね。



渡邊さん ご夫妻
産業社会学部1回生の父母

BKC

息子は、まだ大学院に進学すると決めたわけではありません。ただ一緒に話し合う時、私たちが息子に何らかのアドバイスができるようにという思いから参加しました。大学院生の方の体験談などを通じて、強い意思を持って取り組むことで人間形成を遂げることもでき、社会で活躍する上で非常に意義高い時間を過ごせる場だということを実感。「安心して息子を通わせることができる」と感じました。



鎌田さん ご夫妻
理工学部3回生の父母

BKC

息子は税理士を目指しています。大学院修了なら受験科目の一部が免除され、資格取得に有利と知って、ぜひ進学してほしいと考えています。「どの研究科に進めば良いのか」といった素朴な疑問があったのですが、今日参加してそれらをきちんと把握できました。また、院生の方から直接、入試などに関する詳しい話を聞くことができたのは大きな収穫です。大学院への進学が、「夢の実現に向けて、遠回りのようでも、実は近道になるのでは？」という期待が確信に変わり、安心できました。



江戸さん ご夫妻
経済学部1回生の父母

BKC

キャンパスに来る前に息子の住まいを見てきましたが、きれいに片付いていたので安心しました。毎朝ご飯を炊いて食べ、学校にも持って行って、お昼に学食のおかずと食べているそうです。大学に入って、よく話をしてくれるようになりましたね。アカデミック講演会に参加しましたが、医療と工学の深い関係に興味を持ちました。人の意思までも予測する技術が開発中とは驚きです。子どもには大学時代にいろんなことに挑戦して、生きる力を身につけてほしいと願っています。



森田さん ご夫妻
理工学部1回生の父母

BKC

進路・就職講演会では、企業の採用担当の方から貴重なお話を伺い、参考になりました。キャリアオフィスの方が「学業が一番大切」と、同じことを言われていたので印象に残りました。息子は教えてくれないので、オープンキャンパスには毎回参加して情報を得ています。今の子どもの価値観は自分たちとは随分違うので、もつと社会の厳しさを知ってほしいですね。つい説教したくなるのですが、できるだけ見守るようにしたいと思います。



三浦さん ご夫妻
経済学部3回生の父母

公費助成の取り組みへのお礼と協力をお願い

私学助成は1970年に補助金制度が創設されたときから始まり、私学関係者や保護者からの要求と運動によって1975年に成立した私立学校振興助成法には「経常的経費の2分の1以内を補助することができる」ことが明記されています。しかし近年、私学の経常費に占める補助金の割合は10%程度にとどまっているだけでなく、国立大学と私立大学への公的な補助についての大きな格差があります。その結果、家計に占める教育費負担の割合も大変高くなっています。

このような状況のなか、立命館大学では、1971年から学内の関係パートによる「公費助成のための立命館大学全学連絡協議会（通称：全学公助連）」を組織し、それ以降、保護者負担の軽減、教育・研究の充実等のため公費助成の増額を求める取り組みを進めてきました。

2010年度も保護者のみなさまに署名へのご協力をお願いし、結果として学生・院生や教職員による署名とあわせて全体で7万6千筆以上の署名を集めることができました。改めて御礼申し上げます。

2010年度の活動報告

① 学習会

教職員、学生・院生が公費助成に関する情勢や必要性を共有できるように、公費助成に関する学習会を実施しました。

② 署名活動

学内では、各職場や小集団クラスにおいて署名用紙を配布し、その意義の説明とあわせて署名への協力をお願いしました。また6月には学生・院生と教職員が協力して全学署名デーを実施し、キャンパス内の学生・院生、教職員に署名を呼びかけました。

③ 中央要請行動

2010年11月16日（火）に、全国の私大関係者とともに私大助成中央要請行動を行いました。本学からは教職員と学生が参加して、衆参両議院の国会議員等を訪問し、署名用紙を届けるとともに、公費助成の増額や必要性について訴えました。また、日本商工会議所も訪問し、就職難や就職活動に関する取り組みについて、学生が直接状況を説明しました。多数の議員や関係者の方に熱心に耳を傾けていただき、多くの共感を得ることができました。



2011年度活動の予定

今年度は、学生・院生や教職員に対して、東日本大震災で被災した学生の修学支援や被災地の復興支援という視点も含め、公費助成に関する理解を広めるとともに、署名活動や請願活動に取り組む予定にしています。

今年度についても、1～3回生の保護者のみなさまに署名用紙をお送りいたします。引き続きご協力をお願いいたします（郵送は8月上旬、返送締め切りは9月中旬の予定です）。

保健センターから父母の皆様へ

この夏の暑さ対策

昨年の夏は猛暑を記録し、多くの熱中症患者が救急搬送されました。気象庁の長期予報によると、今年の夏も全国的に平均より暑くなるそうです。一方、東日本大震災の原発事故を受け、全国的に電力不足が予測されるため、下宿や家庭でも節電に努める必要があります。この夏、節電に留意しつつ、暑さ対策をどのように進めたらよいか考えてみました。更に熱中症の予防についても簡単に述べます。

家の中で涼しく過ごすためには、① 屋内の発熱量を減らす、② 屋外からの熱の侵入を減らす、③ 熱を屋外に逃がす、④ 湿度を下げる、ことが必要です。一方、節電のためには、電気器具をできるだけ使用しない、効率の良い電気器具に交換することが有効です。「節電」することが余分な熱の産生を抑え「暑さ対策」にもつながります。本当に暑い時はエアコンが頼りになりますが、電気を大量に使うため、「節電」と両立しません。エアコンをできるだけ使わないで済むように「暑さ対策」を進めることが鍵となります。

① 発熱量を減らす＝節電

電気は小まめに消すこと。日中の照明は不要です。白熱灯を蛍光灯かLED電球に取り替えると節電効果抜群です。パソコンは未使用時に電源を切りましょう。パソコンモニターやテレビは、画面の輝度を下げる。携帯の

充電器やその他の電気器具は、未使用時に電源プラグを抜きましょう。

冷蔵庫の設定温度は中～弱にして、扉の開け閉めは最小限にすること。食料品は買い込まず庫内を整理しましょう。湯沸保温ポットは夏場は不要ですね。炊飯ジャーも余ったご飯は冷凍保存し、保温機能は使わないほうが節電になります。洗濯は1回分ためてから一度に効率よく洗い、乾燥機は使わず干して乾かしましょう。洗髪後のドライヤーは冷風で十分です。トイレの便座保温、温水のスイッチも夏場は切りましょう。

② 屋外からの熱の侵入を防ぐ

昼間、屋外から窓を通じて熱（輻射熱）が屋内に侵入します。窓ガラスに遮熱シールを貼るか、遮熱カーテンをつけて、昼間不在時は窓を閉めカーテンを閉めておきましょう。バルコニーの掃き出し窓に「よしず」を立て掛け、南・西向き窓に「すだれ」を吊ると効果的です。

③ 熱を屋外へ逃がす

在室時は窓を開けて風通しを良くしましょう。扇風機を活用しましょう。それほど暑くないときは扇風機で十分です。扇風機は風が直接肌に当たらないように注意しましょう。暑い時はエアコンが有用ですが、節電のため使用は最小限に抑えましょう。設定温度は28℃以上に

この夏の **納涼** **節電納涼** 対策

寝室の対策

- 遮熱カーテンを使う
- 設定温度は28℃
- 昼間は電気を消す
- すだれを吊す
- 遮熱シールを貼る 朝夕窓を開けて換気する
- よしずを掛ける
- 蛍光灯かLED電球に変える
- モニターの照度を落とす
- 通気性の良い寝具を使う
- エアコンの代わりに扇風機を使う
- 藤(とう)マットを敷く
- 使っていないときはコンセントから抜く

浴室の対策

- 人が居ないとき電気を消す 蛍光灯やLED電球を使用する
- 風呂場とトイレは24時間換気
- 夏は便座保温・温水のスイッチ切る
- コンロ使用時は必ず換気扇オン
- 洗濯は1回分ためてから一気に乾燥機は使わない
- ドライヤーは冷風で使う
- 設定温度90℃に外出時は切る 夏場は使わない
- 設定を中～弱に 庫内の整理 扉開閉は少なく 表面を覆わない
- 余ったご飯は冷凍保存 保温機能は使わない
- 雨の日の洗濯物は部屋ではなく風呂場に干し換気扇を回す

して「冷房運転」で。「除湿運転」は冷えずぎ、余分な電力消費になることがあります。寝る時は「おやすみモード」を使用すると良いでしょう。

4 湿度対策

少なくとも、朝夕二回は窓を開けて部屋の中の空気を入れ替えましょう。トイレ・浴室の換気扇は24時間つけておくとう良いでしょう。壁の吸気口は開けておくこと。雨の日でも、洗濯物の部屋干しは避けて、浴室に干し換気扇を回しましょう。吸湿通気性の優れた寝具を使いましょう。床に籐のマットを敷くと涼しく過ごせます。

熱中症の予防

次に熱中症予防について述べます。暑い気象条件下で無理な運動をしたり、水分摂取が不十分であると、発汗による脱水から全身の循環障害が起こり、めまい(熱失神)、頭痛、吐き気、倦怠感等が生じます(熱疲労)。更に進むと、発汗が止まり異常な体温上昇を来し、意識障害やけいれんなどの中枢神経障害を起こし、生命を脅かす危険な状態に至ります(熱射病)。これらの状態を総称して熱中症と呼びます。熱中症にならないためには、① 身体の発熱量(産熱)を抑える、② 環境からの熱の侵入(受熱)を抑える、③ 身体の熱を放熱する、④ 水分・塩分の十分な補給、が重要です。運動すると筋肉から熱が発生するので、暑熱環境下の運動は熱中症を起こす危険性が増加します。下記の注意を参考にして、熱中症にならないようにしましょう。また、万一熱中症を起こした場合、素早い的確な処置が命を救います。そして、躊躇無く救急車を呼びましょう。

1 暑熱環境の把握

暑い日は炎天下の運動は避けましょう。気温や直射日光だけでなく、湿度や風量にも注意が必要です。熱中症は屋内でも起こります。

2 状況に応じた水分塩分摂取

汗は体温を放熱するための大切なラジエーターです。暑熱環境では身体の水分や塩分が汗となって失われがちです。運動前から十分な水分をとり、運動中は小まめに休憩をとり水分を計画的に補給しましょう。運動後も体重減少が翌日に残らないよう十分に水分を補給して下さい。塩分を適度に含んだスポーツドリンクが便利です。

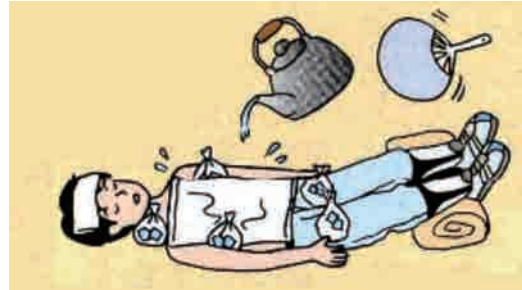
3 暑さに徐々に慣らす(暑熱馴化)

急に暑くなった日、定期試験終了後のオフ明けには、

熱中症(熱射病)の応急処置

救急車が到着するまでの間積極的に体を冷やす

- ◎水をかけたり、濡れタオルを当てて団扇で扇ぐ。
- ◎氷やアイスパックがあれば、頸部、腋の下、太ももの付け根に当てて大きい血管を冷やすと効果的



熱中症が起こりやすくなります。身体が暑さに慣れていないためです。暑熱馴化は約1週間かかります。練習量を調節して徐々に暑さに慣れましょう。

4 個人の条件、体調を考える

1回生、太っている人、下痢、発熱、睡眠不足、二日酔いなど体調の悪いときも、熱中症が起こりやすくなります。運動量を調節し、休む勇気も持ちましょう。

5 服装に注意

服装は、日光を遮断し、風通しの良い、吸湿性の良いものを選びましょう。剣道やアメフトなど防具を用いるスポーツは、小まめに休憩を取り、防具をゆるめて放熱しましょう。

6 体調不良時の早めの処置

運動中に頭痛や吐き気を訴える者、ふらついている者、動きのおかしい者を見つけたら直ちに運動をやめさせ、涼しいところで休ませ水分を補給しましょう。意識障害を伴う場合は死の危険が迫っています。救急車を呼び、到着するまでの間も、全身に水をかけ団扇で扇ぐなどして、一刻も早く体温を下げる必要があります。

保健センターではスポーツ強化センターと連携して、毎年、体育会クラブ向けに熱中症予防の講義を行っています。

詳しくは、下記の保健センターのホームページをご覧ください。

立命館保健センター

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/>

立命館大学ホームページ → 各センター等 → 保健センター

学生の活躍

「311 + Rnet」(立命館大学震災支援活動情報ネットワーク)を設置

東日本大震災発生後の3月中旬より、「311 + Rnet」の活動をスタートしました。311 + Rnetは、震災支援活動を行いたいと考えている立命館大学在学生の情報共有、交流のネットワークです。facebookなどを活用した震災支援ボランティア関連の情報提供や、学生の活動、体験についての報告・情報を蓄積し、交流・共有する役割を担います。



<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>

311 + Rnet facebook

<http://www.facebook.com/pages/311Rnet/213900625288342>

311 + Rnet ウェブサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/311plus/>

311 + Rnet × ミンナDEカオウヤ 「カオウヤ京都プロジェクト」 被災地の商品を衣笠キャンパスで販売

6月27日(月)～7月1日(金)の5日間にわたって、第一体育館学生ラウンジサブウェイ横で「カオウヤ京都プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは、津波被害により、売り先がなくなってしまった福祉事業所の商品を買取り、都市部で



販売して被災地の障害者の生活を支援しようというものです。5日間の総売上は、44万5100円にも上り、学生だけでなく周辺地域の方々もお越しくいただきました。

学生が企画・出演・制作を担当する ラジオ番組「Radio B☆B」がスタート!

5月7日(土)より、学生が企画・出演・制作を担当するラジオ番組「Radio B☆B」がFM京都「α-STATION」でスタートしました。番組のコンセプトは「Beyond Borders」。大学の街「京都」から「若者を元気に!」「京都を元気に!」「社会を元気に!」するために、あらゆる「Border」を越えて、リスナーにエールを送る30分です。

オンエアは毎週土曜日20:30 - 21:00です。



教育・研究の成果

濱川圭弘・元立命館副総長が 瑞宝中綬章、飯田健夫・立命館副総長が 瑞宝小綬章を受章

春の叙勲において、濱川圭弘・元立命館副総長、飯田健夫・立命館副総長が、その功績をたたえられ、叙勲を受けることとなりました。

濱川圭弘・元立命館副総長

受章: 瑞宝中綬章

功労内容: 教育研究功労



濱川圭弘
元立命館副総長

飯田健夫・立命館副総長

受章: 瑞宝小綬章

功労内容: 通産行政事務功労



飯田健夫
立命館副総長

森裕之・政策科学研究科教授ら政策科学研究科教員が「南信州における東日本大震災の被災者への対応—地域分散型震災支援システムの提言—」を発表

政策科学研究科では、院生による参与型政策研究を、交流協定を結んでいる自治体やNPOの組織の中で行う「地域共創サイト」を設けています。典型の一つが「南信州サイト※」です。

今回、4月17日(日)～19日(火)の3日間、南信州サイトにおいて現地調査を実施した上で、被災者受け入れの観点からの制度や政策課題の抽出、自治体の組織文化、自治体と大学の連携に基づく研究の有効性・可能性に関する提言をまとめました。

提言を行った教員は、政策科学研究科に属する研究者として、こうした地域共創サイトの抱える課題を検証し、必要な提言を行っていきことが、東日本大震災が生じた現状における大学の社会的貢献の一つになると考え、提言を発表しました。

※南信州サイト…飯田・下伊那地域にある14市町村および長野県庁(下伊那地方事務所)の各機関。この地域では、東日本大震災後いち早く100名以上の被災者を受け入れています。

学園の取り組み

衣笠図書館内に新しい学習空間 『ぴあら』がオープン

4月1日(金)、衣笠図書館内旧マルチメディアルームスペースに、ピア・ラーニング(Peer Learning)を促進する学習空間として、「ピア・ラーニングルーム(呼称『ぴあら』)」が誕生。『ぴあら』は、「仲間(ぴあ: Peer)とともに学ぶ楽しさ、成長する喜びを感じる場であること」をコンセプトに、学生の主体的で創造的な学びが促進されるようデザインされたスペースです。特



にグループ学習やアクティブラーニングが活発に行われるように、様々な施設・サポートが提供されています。

BKCに「ランチストリート」がオープン

4月7日(木)から、BKCに新しく「ランチストリート」が誕生。学生の食環境が更に充実しました。この「ランチストリート」は2009年度キャンパス整備プロジェクトに参加していた学生スタッフと学友会による提案・要望によって生まれました。出されるメニューは、BKC周辺のお店による、BKCの学生のための特別メニューと

なっています。お店は平日午前11時から午後2時まで営業し、いずれもテイクアウト専門店、学生や教職員以外の方も利用できます。

★「ランチストリート」の詳細はRS WEBへ→
<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs>



「2010年度事業報告書」および「2011年度事業計画書」のご案内

このたび、学校法人立命館の「2010年度事業報告書」および「2011年度事業計画書」を発行いたしました。大学ホームページでも閲覧可能です。

http://www.ritsumeai.jp/profile/a08_j.html



なお、冊子をご希望の場合は、下記の事務局宛にご希望の冊子名、冊数とお名前、送付先、電話番号をご記入の上、FAXにてお申込みください。

学校法人立命館 事業計画課
〒604-8520
京都市中京区西ノ京朱雀町1番地
TEL:075-813-8244 FAX:075-813-8252

学会受賞ニュース

受賞内容	所属	氏名
応用物理学会第1回化合物半導体エレクトロニクス業績賞(赤崎勇賞)	理工学部	名西愷之教授
地盤工学会関西支部賞・地盤技術賞	総合理工学研究機構	田中克彦教授
	理工学部	深川良一教授
	グローバル・イノベーション研究機構	酒匂一成准教授
	理工学研究科	平岡伸隆さん(深川研究室・理工学研究科M2)
社団法人電気学会よりフェローの称号を授与	グローバル・イノベーション研究機構	杉山進教授

立命館東京キャンパス・大阪キャンパス公開講座

先端を駆けるリーダーたちの「挑戦」～その成功の秘訣～

立命館東京キャンパス・立命館大阪キャンパス 共催

	開催日	講師名	講演タイトル
第4回	11/11(金)	株式会社伝統デザイン工房 代表取締役社長 高橋 万太郎 氏	おいしい醤油：こだわり調味料の専門サイト～職人醤油.com～起業～ゼロからニュービジネスを立ち上げる～
第5回	11/25(金)	日本赤十字社 副社長 大塚 義治 氏	官庁のキャリア最前線で活躍する働き方、生き方(仮称)
第6回	12/9(金)	株式会社バル 代表取締役会長 井上 英隆 氏	移り変わりの激しいファッション業界で、拡大を続ける経営術の秘訣

- **会場** 立命館東京キャンパス・立命館大阪キャンパス
※大阪キャンパスはサテライト中継となります。
- **時間** 19:00～20:40
- **定員** 東京キャンパス60名・大阪キャンパス50名
- **受講料** 1回2,000円

お問い合わせ先 立命館東京キャンパス TEL:03-5224-8188
立命館大阪オフィス TEL:06-6360-4895

2011年度 立命館大阪オフィス講座

“学ぶ楽しみ”“知る喜び”は暮らしを豊かにします。本年度も様々な分野の研究者・専門家が、あなたの知的好奇心に応えた熱い講義を展開します。(全21回)

お問い合わせ先 立命館大阪オフィス TEL:06-6360-4895

2011年度 大阪・京都文化講座(後期)「大阪・京都の風土と景観」

大阪大学21世紀懐徳堂・立命館大学文学部・立命館大阪キャンパス・立命館東京キャンパス共催

	開催日	講師名	講演タイトル
第1回	10/17(月)	大阪大学 文学研究科 教授 堤 研二	大阪の地域特性とその課題
第2回	10/24(月)	立命館大学 文学部 教授 片平 博文	平安京に降った雪 一王朝時代の「雪山」作りから一
第3回	10/31(月)	大阪大学 文学研究科 教授 小林 茂	城下町大坂 一江戸時代の大阪を考える一
第4回	11/7(月)	立命館大学 文学部 教授 矢野 桂司	バーチャル京都：歴史都市京都のデジタル地誌学
第5回	11/14(月)	大阪大学 経済学研究科 教授 高山 正樹	大阪のインナーシティと都市再生の課題
第6回	11/21(月)	立命館大学 文学部 教授 高橋 学	京都の災害と歓楽街
第7回	11/28(月)	大阪大学 文学研究科 助教 波江 彰彦	大阪におけるごみ問題の近現代
第8回	12/5(月)	立命館大学 文学部 准教授 加藤 政洋	京洛の名所と宴席のある風景

- **会場** 立命館大阪キャンパス・立命館東京キャンパス
※東京キャンパスはサテライト中継となります。
- **時間** 14:00～15:40(講演90分、質疑応答10分)
- **定員** 大阪キャンパス98名・東京キャンパス60名
- **受講料** 1回2,000円(7回以上一括申し込みの場合、13,000円)

- **開講期間** 2011年9月14日(水)～2012年2月29日(水)
 - **会場** 立命館大阪キャンパス
 - **時間** 14:00～15:40(講演90分、質疑応答10分)
 - **定員** 98名
 - **受講料** 1回1,000円(17回以上一括申し込みの場合、17,000円)
- 講座スケジュール・講演内容等詳細は立命館大阪キャンパスホームページをご覧ください。



SPORTS スポーツ

[問い合わせ先]
スポーツ強化センター：075-465-7863



スポーツ関連団体の主な成績 (2011年4月～7月)

団体名	開催日	成績
女子陸上競技部	4月23日	第59回兵庫リレーカーニバルハーフマラソンで岩川真知子さん(経営4)が優勝 (8月に中国・深圳で開催される第26回夏季ユニバーシアードハーフマラソンの代表に内定)
	6月10～12日	第95回日本陸上競技選手権大会女子1,500mで藪下明音さん(経営2)が2位
	6月17～19日	2011日本学生陸上競技個人選手権大会女子10,000m Wで前田浩唯さん(経済2)が優勝、 三段跳で夜久 和さん(産社4)が6位
	7月8日	第19回アジア陸上競技選手権女子1,500mで藪下明音さん(経営2)が4位
男子陸上競技部	4月29日	第45回織田幹雄記念国際陸上競技大会男子100mで小谷優介さん(経済4)が優勝
	6月10～12日	第95回日本陸上競技選手権大会 男子100mで小谷優介さん(経済4)が2位、男子1500mで今崎俊樹さん(経営3)が3位
	6月17～19日	2011日本学生陸上競技個人選手権大会 男子200mで堀江新太郎さん(経済3)が2位、男子800mで石井大介さん(経営4)が3位、 男子400mHで小西勇太さん(経済3)が3位、110mHで三田恭平さん(経営2)が7位
	7月7～8日	第19回アジア陸上競技選手権男子100mで小谷優介さん(経済4)が7位
ホッケー部	6月30日～7月3日	ホッケー部女子第30回全日本大学王座決定戦準優勝
弓道部	6月26日	第23回全国大学弓道選手権大会男子団体で準優勝
バドミントン部	4月27日～5月7日	男子 関西学生春季リーグ戦において連覇を達成 (春季リーグ戦MVPに宇野賢人さん(産社3)が選ばれた)
	6月3～22日	第61回関西学生バドミントン選手権大会において、女子シングルスで土井杏奈さん(産社4)が優勝、 男子ダブルスで土居寛人さん(産社4)・宇野賢人さん(産社3)ペアが優勝、 男子シングルスで平池淳希さん(産社3)が準優勝
柔道部	4月2～3日	平成23年度全日本選抜柔道体重別選手権大会女子70kg級にて大野陽子(産社4)さんが2位
	5月15日	第19回関西学生女子柔道優勝大会において4連覇達成
硬式野球部	7月3～8日	第38回日米大学野球選手権大会に金子侑司さん(産社3)が日本代表で出場
射撃部	7月2～3日	第7回日本学生選抜ライフル射撃選手権女子ライフル3姿勢で松本知子さん(産社4)が優勝
水泳部(シンクロ)	6月18日	エスパーニャ・シンクロデュエット決勝で 乾友紀子さん(経営3)、小林千紗さん('09年度経済卒)ペアが2位
	6月19日	エスパーニャ・シンクロチーム決勝で日本チーム2位



CULTURE/ART 文化・芸術

【問い合わせ先】
学生オフィス：075-465-8167

将棋研究会

第24回アマチュア竜王戦で 中川慧梧さんが3位

(6月25日、26日 東京都港区チサンホテル浜松町)

第24回アマチュア竜王戦が開催され、優勝が稲葉聡さん(三重県代表・'08年度経営卒)、準優勝が佐伯紘一さん(滋賀県代表・'02年度理工卒)、3位が中川慧梧さん(京都府代表・産社1)となった。3名とも、第25期竜王戦(プロ公式棋戦)出場の選考対象となった。

応援団チアリーダー部

「第4回 インドネシア ナショナル チアリーディング チャンピオンシップ 2011」にて、 応援団チアリーダー部が優勝

(4月24日 インドネシア・ジャカルタ)

インドネシア・ジャカルタにて開催された「第4回 インドネシア ナショナルチアリーディング チャンピオンシップ 2011」に応援団チアリーダー部が出場し、オープンディビジョン(大学生以上で編成されたクラブチーム部門)にて見事優勝を果たした。本大会は、インドネシア国内の地区予選を勝ち残ったチームによる決勝戦として、4月24日(日)に開催されたもの。応援団チアリーダー部は、昨年の成績を評価され、日本チアリーディング協会からの推薦を受けて、出場した。



CAMPUS ACTIVITIES 学生の活動

【問い合わせ先】
学生オフィス：075-465-8167

「わくわく科学実験 in 立命館 ～しゃぼんでR～」を開催!

(4月30日 びわこ・くさつキャンパス)



ライフサイエンス研究会は小学生を対象とした「わくわく科学実験in立命館～しゃぼんでR～」を開催した。会場には50名ほどの小学生とその保護者が集まった。

当日は、7つの班に分かれてしゃぼん玉をテーマとした実験が行われた。イベントの目玉として、身体を覆うほどの超巨大しゃぼん玉が用意され、児童たちは、そのしゃぼん玉の中に入り、不思議な感覚を楽しんだ。

びわこ・くさつキャンパス (BKC) で 「新歓祭典」を開催!!

(4月23日 びわこ・くさつキャンパス)

びわこ・くさつキャンパス (BKC) にて、「新歓祭典～新しい君と出会う～」が開催された。特設ステージでは、課外自主活動団体によるパフォーマンスやライブ演

奏が披露された。様々な企画を通じて多くの新入生が同級生・上回生と親交を深めていた。

なお、今年は東日本大震災の発生を受け、学生による支援物資の募集が行われ、集まった支援物資や募金は被災地に送り届けられた。



『RS Web』は、リアルな立命館を紹介するサイトです。在学生のみなさんの学生生活役に立つ情報を中心に、立命館大学で頑張っている学生、教職員を紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/>



学生イベント&スポーツ

最新情報はこちらから

<http://www.ritsumeai.ac.jp/event-sports/>



トップページ



結果のページ

こんな場合はここへ

各種取扱い窓口のご紹介

事項	内容例	取扱い窓口	概要	
カリキュラムについては	卒業に必要な単位が知りたい	各学部事務室	学部則で定めています。履修要項で確認してください。	
	成績について知りたい		セメスターごとの成績発表において、成績通知表を交付します。	
	教員免許状をとるためには(教職課程の履修について)		取得できる免許の種類等は学部則で定めています。履修要項で確認してください。1回生からの計画的履修と自主的自発的な努力が必要です。	
各種変更届出は	学生の現住所・電話番号などの変更	【衣笠】各学部事務室 【BKC】学びステーション 077-561-4972	CampusWebより、学生本人が随時更新してください。	
	保証人または学費請求先の変更(住所、姓名など)		学生本人が所定の変更届を提出してください。保証人のみの情報変更についても、左記の窓口で受け付けますのでご注意ください。	
学籍や進路に関する相談は	休学	各学部事務室	病気などやむを得ない理由で継続して2ヶ月以上就学することができず、休学を希望する場合は、所定の期日までに「休学願」を提出して、許可を得る必要があります。	
	復学		休学者が復学を希望する場合は、所定の期日までに「復学願」を提出して、許可を得る必要があります。	
	退学		やむを得ない理由で退学を希望する場合は、「退学願」を提出して、許可を得る必要があります。	
	再入学		退学・除籍となった学期の最終日の翌日から起算して2年以内に再入学の出願を行った場合、選考の上、許可されることがあります。出願期間等は再入学要項で確認してください。	
	転籍		募集がある場合、所定の期間内に申し、選考の結果、許可されることがあります。	
	海外留学したい		国際教育センター 【衣笠】075-465-8229 【BKC】077-561-3038	海外留学プログラムの相談窓口、募集要項の配布、協定校の情報。
	卒業後も勉学を続けたい		各学部(研究科)事務室	大学院進学相談・資料請求ができます。また、聴講生・科目等履修生の制度もあります。
就職について相談したい	就職について相談したい	キャリアオフィス 【衣笠】075-465-8172 【BKC】文系 077-561-3942 理系 077-561-2626	回生にかかわらず、適宜相談してください。	
	難関国家試験・資格試験等に備えたい	エクステンションセンター 【衣笠】075-465-8297 【BKC】077-561-2853 【朱雀】075-813-8285	各種試験対策講座や、スキルアップのための講座を開講しています。	
	学費納入方法についての問い合わせ	財務経理課 075-813-8164	郵送される「学費案内」に同封の振込用紙で銀行からお振込ください。納入期限にご注意ください。	
学費や経済的な相談は	学費納入が困難なとき	学生オフィスまたは各学部事務室	お早めにご相談ください。	
	奨学金を受けたい	学生オフィス 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-2854	日本学生支援機構奨学金をはじめ、学内奨学金その他民間奨学財団奨学金等があります。	
通学方法の相談は	通学定期券を購入するとき	各学部事務室	通学定期券は現住所(学生証記載住所)の最寄駅から大学最寄駅までの最短区間に限り、購入することができます。購入に際しては、交通機関に学生証を提示してください。なお、学生証の提示だけでなく、通学区間を証明する「通学証明書」が必要な場合がありますので、各交通機関に確認してください。「通学証明書」は所属の学部事務室で発行します。	
	バイク通学の登録	【衣笠】キャンパスインフォメーション 075-465-8144 【BKC】キャンパス管理室 077-561-2621	バイクで通学する場合は必ず登録してください。	
課外活動について	課外活動上の問題など	学生オフィス 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-3952 スポーツ強化オフィス 【衣笠】075-465-7863 【BKC】077-561-3977	入・退部や練習・合宿などの日常の問題はキャプテンまたは先輩などに相談してください。相談しにくい問題は顧問・部長・副部長の先生や職員、または学生オフィスやスポーツ強化オフィスにご相談ください。	

■ 各学部事務室連絡先

法学部事務室	075-465-8175	経済学部事務室	077-561-3940
産業社会学部事務室	075-465-8184	経営学部事務室	077-561-3941
国際関係学部事務室	075-465-1211	理工学部事務室	077-561-2625
政策科学部事務室	075-465-7877	情報理工学部事務室	077-561-5202
文学部事務室	075-465-8187	生命科学部・薬学部事務室	077-561-5021
映像学部事務室	075-465-1990	スポーツ健康科学部事務室	077-561-3760

■ サテライトオフィス連絡先

東京オフィス	03-5204-8611
東京キャンパス	03-5224-8188
大阪キャンパス	06-6360-4895

お子さまの学生生活について、疑問やご相談にお応えする窓口をケース別にご紹介します。
 お子さまがお悩みの際には以下の取扱い窓口に行くようご助言ください。



事項	内容例	取扱い窓口	概要
事故・事件・トラブルなどの相談は	交通事故、悪質商法、盗難、迷惑行為などのトラブルに見舞われたとき	学生オフィス 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-2854	交通事故や盗難、悪質商法、迷惑行為、いたずら電話などの被害に秘密厳守で相談にのります。
からだやこころ・ハラスメントの相談は	けが、病気になったとき	保健センター 【衣笠】075-465-8231 【BKC】077-561-2635	保健センターは診療所を併設し、診療や応急処置を行っています。診察には保険証が必要です。
	こころとからだに悩みがあるとき		どんな小さな問題でも相談に応じます。他の病院への紹介もします。
	悩みや相談があるとき	学生サポートルーム 特別ニーズ学生支援室 【衣笠】075-465-8168 【BKC】077-561-2854	スタッフが相談者の立場に立って一緒に考えます。秘密は厳守します。サポートルーム又は学生オフィスで予約をしてください。
	ハラスメントの相談		各キャンパスのハラスメント相談員までご相談ください。 http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gi/jinji/harass/index.html
その他	落とし物をした・落とし物をひろった	【衣笠】キャンパスインフォメーション 075-465-8144 【BKC】キャンパス管理室 077-561-2621	所持品の管理には十分ご注意ください。
	学生証の再交付	【衣笠】各学部事務室 【BKC】学びステーション 077-561-4972	学生証を紛失、破損または汚損した場合は、再交付(有料)の手続きを行ってください。紛失・盗難の場合は、必ず最寄りの警察署に届け出るとともに、所属学部の事務室(BKCの学部は学びステーション)にも届け出てください。また、学生証の写真が不鮮明・磁気不良の場合は無料で再交付します。再交付には2～3日かかりますので、余裕を持って手続きを行ってください。
	父母が本学の図書館を利用したい	【衣笠】衣笠図書館 075-465-8217 【BKC】メディアセンター 077-561-2634 メディアライブラリー 077-561-3943	父母教育後援会会員であることを条件に、図書館の利用が可能です。利用手続きについては、衣笠図書館またはメディアセンター・メディアライブラリー(アクロスウイング2階)へお問い合わせください。
	入学試験の問い合わせ	入学センター 075-465-8351 入学センター・テレフォンサービス 075-465-8111	入試に関する情報を提供しています。オープンキャンパス、入試相談会などを行っています。
	学生生活いろいろ	立命館生協 【衣笠センター】075-465-8280 【BKCセンター】077-561-3918	下宿、学生総合共済、立命館オリジナルグッズなど様々なものを扱っています。入学式の写真などを収めたフレッシュブック、卒業アルバムのお問い合わせもこちらです。
	平和について知りたい・学びたいとき	国際平和ミュージアム 国際平和メディア資料室 075-465-8151	国際平和ミュージアム：戦争と平和の歴史や、今、私たちが平和のためにできることを展示で紹介。メディア資料室：展示内容やテーマをもっと詳しく知りたい、調べたい人のために2万冊を超える図書とメディアの蔵書があります。課題の調査にも便利です。

■ 保健センター

保健センターの各キャンパスの診療日程は、年度途中で医師の都合等により変更になる可能性があります。

また、4月の健康診断期間中、夏期および春期休暇中の窓口時間、診療日程は、開講期間中と異なります。別途ホームページや窓口の掲示で確認してください。

衣笠キャンパス

科別	曜日	各科受付時間		
		午前	午後	
窓口時間	月～金	9:30～11:30	12:30～18:00	
	休暇期間	9:30～17:00		
診察・健康相談	内科医師担当	月・水・金	9:30～11:30 13:00～15:30	
		火・木	— 13:00～15:30	
	精神科医師担当(予約制)	月	9:30～11:30	13:00～16:30
		火	—	14:00～17:00
		木	—	13:00～16:30
		金	—	13:30～16:30
X線撮影	木	9:30～11:30	13:00～15:30	
禁煙外来(予約制)	月・火	—	15:30～16:30	
レディース外来(予約制)	火	—	13:30～15:30	
一般健診(予約制)	木	9:30～11:30	—	

びわこ・くさつキャンパス

科別	曜日	各科受付時間		
		午前	午後	
窓口時間	月～金	9:30～11:30	12:30～18:00	
	休暇期間	9:30～17:00		
診察・健康相談	内科医師担当	月・水・金	9:30～11:30 13:30～16:00	
		火・木	— 13:30～16:00	
	精神科医師担当(予約制)	火	—	13:30～17:00
		水	9:30～11:30	13:00～16:30
	禁煙外来(予約制)	月・火・金	—	16:00～17:00
レディース外来(予約制)	月	9:30～11:30	—	

朱雀キャンパス

科別	曜日	各科受付時間		
		午前	午後	
窓口時間	月～金	9:30～11:30	12:30～17:00	
	休暇期間	9:30～17:00		
診察・健康相談	内科医師担当(禁煙外来含む)	水	— 13:30～15:30	
		木	— 13:30～15:30	
	精神科医師担当(レディース外来含む)	金(第4)	—	13:30～15:30
		木(第1・第3)	—	13:30～15:30

2011年度前期 卒業式・学位授与式ご案内

2011年9月23日(金・秋分の日)

[対象者] 全学部の2011年9月卒業者

※卒業合否発表は、9月9日(金)になります。

式典は朱雀キャンパスにて行います。衣笠・BKC所属の方も朱雀キャンパスで出席してください。
所属キャンパスにより開式時間が異なりますのでご注意ください。

衣笠キャンパスの学部・所属の方

時間 / 10時30分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室(5階ホール)

びわこ・くさつキャンパスの学部・所属の方

時間 / 13時30分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室(5階ホール)

- 30分前開場(10分前までに到着してください)、開式後は入場できませんので時間厳守をお願いします。
- 式典に出席される方で手話通訳の必要な方は、8月末日までに所属の学部・研究科の事務室へ申し出てください。

秋のオープンカレッジ・アカデミック京都ウォッチング開催のご案内

秋のオープンカレッジ

2011年11月19日(土) 13:00～16:00(予定)

[場所] 衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス

学部別懇談会を実施。お子様が学ばれている学部の教員や職員が学生生活や進路・就職についてお話しします。また学部・学部に在籍している学生の体験談などもお聞きいただけます。お子様の所属する学部・学科の学びや進路について知っていただける貴重な機会です。



アカデミック京都ウォッチング

2011年11月20日(日)



- 父母教育後援会会員様には別途ご案内を送付いたします(10月上旬発送予定)。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは…
「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

会報が複数届いた方へ

ご兄弟で立命館大学に通われている場合、父母教育後援会の会費1名様分をご返金させていただいております。本誌が2通届いた方は事務局までご連絡ください。申請用紙を送付させていただきます。

■ 会員様の住所変更について

本誌は、登録されている学生の保証人住所に送付しております。住所を変更された場合は、学生本人による住所変更の手続きが必要です。お子様に学生証をお持ちの上、所属の学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出いただけますようお願いいたします。

■ 立命館大学夏期一斉休暇のお知らせ

8月12日(金)～8月19日(金)は、全学一斉休業期間につき全窓口が閉鎖となります。

*最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学外には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

立命館大学父母教育後援会だより 2011年度 夏号

2011年8月発行 立命館大学父母教育後援会 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel. 075-813-8261 Fax. 075-813-8262